EON 500 Series
EON 300 Series
取扱説明書

対象機種

EON 500 Series	EON 300 Series
EON515XT	EON315
EON510	EON305
EON518S	

このたびは、ポータブル・パワードスピーカー「EON Series」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

JBL® PROFESSIONAL
by HARMAN

▽ 目次

■はじめに 3

取扱説明書 (本書) をお読みください。

付属品をご確認ください

保証書について

■特長 3

■お手入れと保管の仕方 3

■安全上のご注意 4

■クイック・セットアップ・ガイド 5

■各部の機能

EON515XT 6
- ●各部名称 6
- ●ブロックダイアグラム 6
- ●コネクター・コントロールパネル 7

EON510 9
- ●各部名称 9
- ●ブロックダイアグラム 9
- ●コネクター・コントロールパネル 10

EON518S 12
- ●各部名称 12
- ●ブロックダイアグラム 12
- ●コネクター・コントロールパネル 13

EON315 14
- ●各部名称 14
- ●ブロックダイアグラム 14
- ●コネクター・コントロールパネル 15

EON305 17
- ●各部名称 17
- ●ブロックダイアグラム 17
- ●コネクター・コントロールパネル 18

■スピーカーの設置 19

サスペンション・ポイントを使用して天井に吊り下げる場合 20

■アプリケーション例 21

■バランスとアンバランス 29

■故障かなと思ったら 29

■仕様

EON 500 Series 31

EON 300 Series 32

■はじめに

取扱説明書 (本書) をお読みください。

ご使用いただくまえに必ず本書をお読みください。内容をよくご理解された上で、正しくお使いください。

付属品をご確認ください

それぞれの EON 500 Series、EON 300 Series には、以下のものが付属しています。開梱時にご確認ください。

●取扱説明書 (本書)
● 3m 電源ケーブル
● 保証書

保証書について

- 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より 2 年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不充分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- 改造など通常の使用範囲を超えた取り扱いによる、設計製造以外の要因で起きた故障や不都合は、期間内であっても保証の対象外となります。

■特長

- 世界中で支持され、ポータブル・パワードスピーカーシステムの牽引役となった EON® Series の次世代モデルです。
- ポータブルに妥協しない優れた出力性能を備えています。高音質 PA システムを必要とする様々なシーンに最適です。
- 並列接続用のコネクターを装備しており、複数の EON を併用したり、他のシステムとの接続も可能です。
- 徹底した軽量化と高い耐久性をあわせもち、ポータビリティに優れています。
- 低域ドライバーには 2 個のボイスコイルを同軸に配置した、独自のディファレンシャル・ドライブ技術とネオジム磁石を使用。EON515XT と EON510 の高域ドライバーには、ネオジム磁石を採用したコンプレッションドライバーを使用しています。また、指向制御に優れた 100° × 60° の定指向性ホーンが、カバー範囲に均一な音質を低歪率で出力します。
- 多彩な設置方法に対応します。床面への縦置きやスピーカースタンドへの取り付けはもちろん、フロアーモニタとして斜め置きができます。また、サスペンションポイントを使用して、天井からの吊り下げも可能。

■お手入れと保管の仕方

EON 500 Series、EON 300 Series の取り扱いに注意していただくと、より長い年月に渡ってご使用になれます。

- エンクロージャーの外面は乾いた布で拭き、常にきれいにしてください。掃除を行う前に電源接続は必ず外してください。
- EON 500 Series、EON 300 Series を極端な低温のなかで長時間使用する場合には、小さな音量で 1 時間程度のヒートアップを行って、急に大きな音量を出さないようにしてください。

■安全上のご注意

お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を以下に記載しています。

● 危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- スピーカーを水に入れたり、ぬらさないでください。火災や感電の原因になります。雨天、降雪中はぬれないように設置してください。
- AC100V　50/60Hz の電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 可燃性ガスが発生する場所で使用しないでください。爆発する恐れがあり、危険です。
- スピーカーの上に水などが入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災や感電の原因となります。
- 火災や感電の危険を避けるため、リアパネルのカバーや入力モジュール、電源のカバーは外さないでください。お客様が保守できる部分は内部にはありません。保守派資格を持ったサービス要員にお任せください。
- 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 電源ケーブルは、付属のものを使用してください。また、他の用途に使用しないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、重いものの下敷きにしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源を切って使用をやめ、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

人が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- それぞれのスピーカーの重量を確認し、開梱や持ち運びの際にけがをしないよう注意してください。
- 傾いたところなど不安定な場所や磨かれた床など滑りやすい面に置かないでください。音の出力エネルギーによってスピーカーが動いてしまうおそれがあり、落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。水平な場所に置き、ステージの上から落ちないよう、ゴムマットの上に置くなどの対処をしてください。
- スピーカースタンドに取り付けたり、天井から吊り下げて使用する際は、19～20ページを参照し、安全に設置してください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 配線は電源を切ってから説明書に従って正しく行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因になることがあります。
- 過大入力を加えないでください。また、長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヒューズ切れは専門の技術者による修理が必要です。保守は資格を持ったサービス要員にお任せください。
- 廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。

■クイック・セットアップ・ガイド

※ EON 500 Series で説明しています。

1．レベルコントロールつまみを最小値にする

① すべてのレベルコントローラーを完全に下げます。
② EON515XT の場合は、EQ コントローラーを「FLAT」の位置にします。

2．EON515XT、EON510 の MIC/LINE スイッチを設定する

① マイクロホンを INPUT3 につなぐ場合には、MIC/LINE スイッチは MIC の位置 (押した状態) にします。
② ポータブルプレーヤーや電子楽器などの音源を INPUT3 につなぐ場合には、MIC/LINE スイッチは LINE の位置 (押していない状態) にします。

3．AC 電源との接続

電源スイッチが入っていない事を確認した後、電源ケーブルをきちんと接地されている AC コンセントに差し込みます。

4．機器同士を接続する

音源からのケーブルを EON515XT と EON510 の INPUT3 コネクターに、EON518S ではどちらかの INPUT コネクターに接続します。音源がアンバランスであれば、フォーンプラグの音声ケーブルを EON515XT の INPUT1 または INPUT2 コネクターに、EON510 の場合は INPUT1 ＆ 2 コネクターに接続します。

5．電源を入れる

① 音源となる機器の電源を入れます。
② EON 500 Series の電源スイッチを入れます。フロントパネルの JBL のロゴバッジとリアパネルの POWER インジケーターが点灯します。

6．レベルを設定する

① 音源の出力信号レベルを実際に使われるときの状態に上げます。
② EON 500 Series からの音を聴きながらそれぞれのレベルコントローラーを上げていきます。

7．EQ で好みの音にする

EON515XT と EON510 には、「BOOST」「FLAT」「CUT」の 3 つの EQ があります。

8．LIMIT インジケーターを確認する

LIMIT インジケーターは内蔵のアンプが最大出力に近づくと点滅します。たまに点滅するくらいに調節してください。

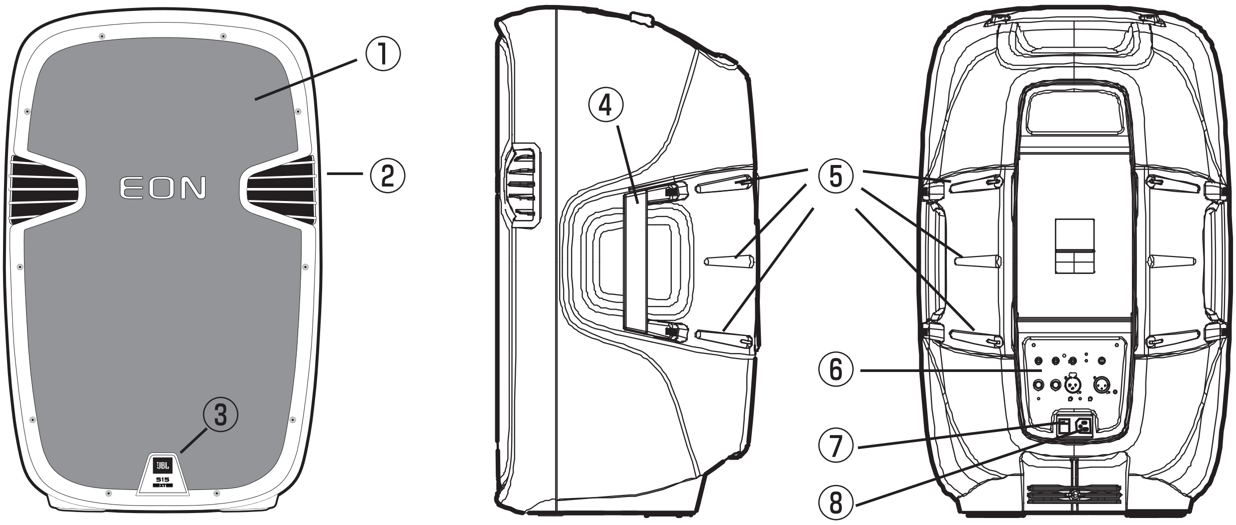
9．システムの電源を落とす

⚠ 順番を間違うと、不意に大きな音が出力され、聴力に支障が出る恐れがあります。

① EON 500 Series のレベルコントローラーを下げる。
② 接続している音源の出力信号レベルを下げる。
③ EON 500 Series の電源スイッチを切る。
④ 接続している音源の電源を切る。

■ EON515XT

●各部名称



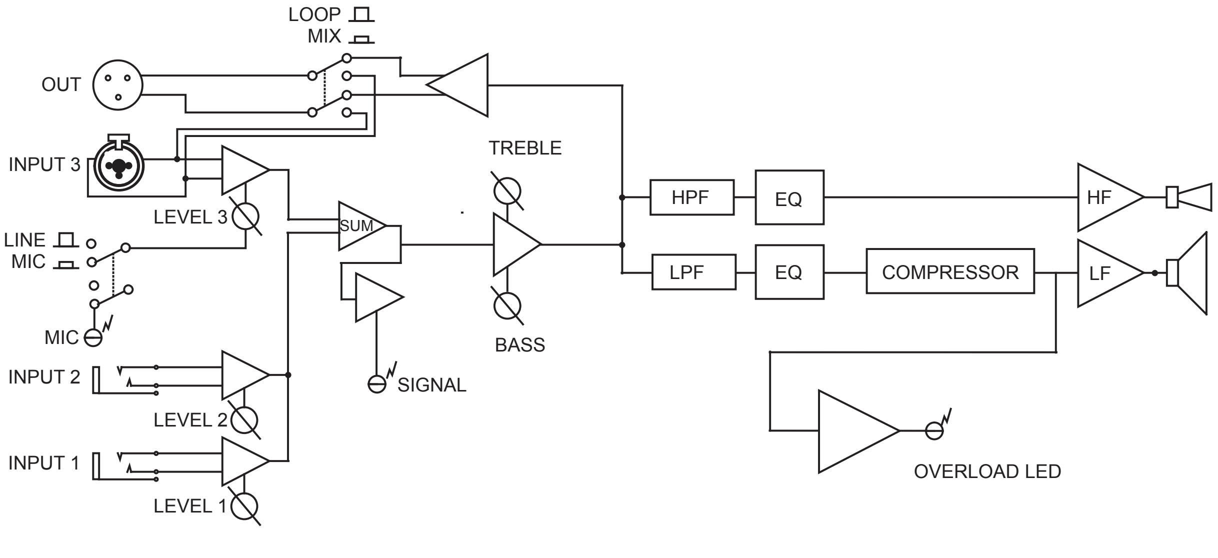
①グリル
②ポート
③ JBL ロゴ
④ハンドル

⑤スタック・ベース
モニターポジション時の足になります。

⑥コネクター・コントロールパネル
次頁参照

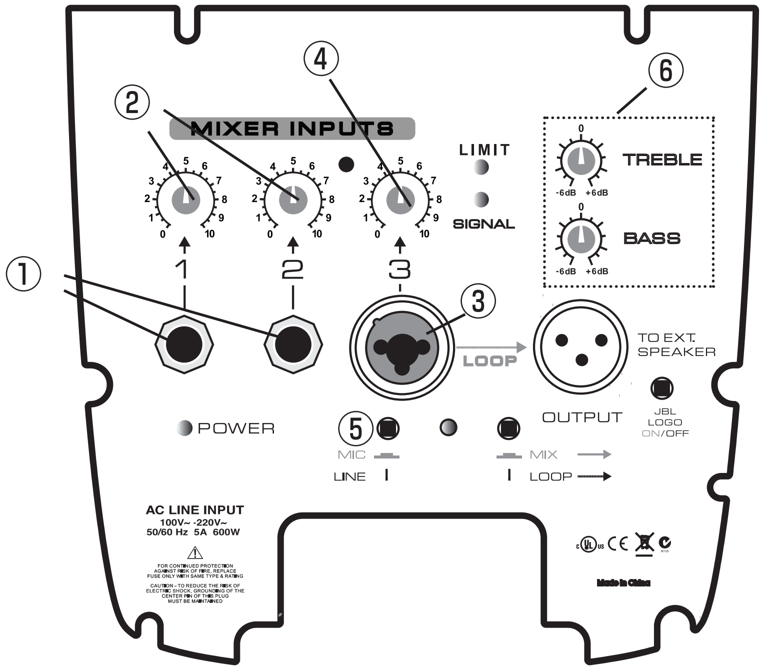
⑦電源スイッチ
⑧電源コネクター

●ブロックダイアグラム



■ EON515XT

●コネクター・コントロールパネル



① INPUT(インプット)1 & INPUT2 コネクター

標準フォーンジャック(3P)。アンバランスの入力も可能。カセットテープやCD、MP3 プレーヤー、コンピューターのサウンドカード出力、キーボード、電子音楽機器などラインレベルの入力に対応します。

② INPUT1 & INPUT2 レベルコントローラー

INPUT1 と INPUT2 のレベルを調整します。

③ INPUT3 コネクター

XLR(メス) コネクターのバランス入力と標準フォーンジャック (3P) の両方に対応。マイクロホンからのマイクレベルの入力とミキシングコンソールや電子音楽機器などのラインレベルの入力が可能 (公称 -44dBu ～ +20dBu)。MIC/LINE スイッチと INPUT3 レベルコントローラーで入力感度の調整ができます。スピーカーに 1 つの信号しか送らない場合は、ここに接続します。

④ INPUT3 レベルコントローラー

INPUT3 のレベルを調整します。INPUT3 に接続されたマイクロホンやミキシングコンソール、電子楽器などの出力レベルを EON515XT の入力感度に合わせるために使用します。

⑤ MIC/LINE(マイク / ライン) スイッチ

INPUT3 のみに作用し、音源に合わせた入力感度に設定します。

・MIC(押した状態) は、マイクロホンを直接接続するときに使用します。

・LINE(押していない状態) は、ミキシングコンソールや電子音楽機器などラインレベルの音源を接続するときに使用します。

※注意
INPUT3 レベルコントローラーを左いっぱいに回してから、MIC/LINE スイッチの操作をしてください。MIC/LINE スイッチの操作後、好みの音量になるまで INPUT3 レベルコントローラーをゆっくりと右に回して調整してください。

⑥ EQ(イコライザー) コントロール

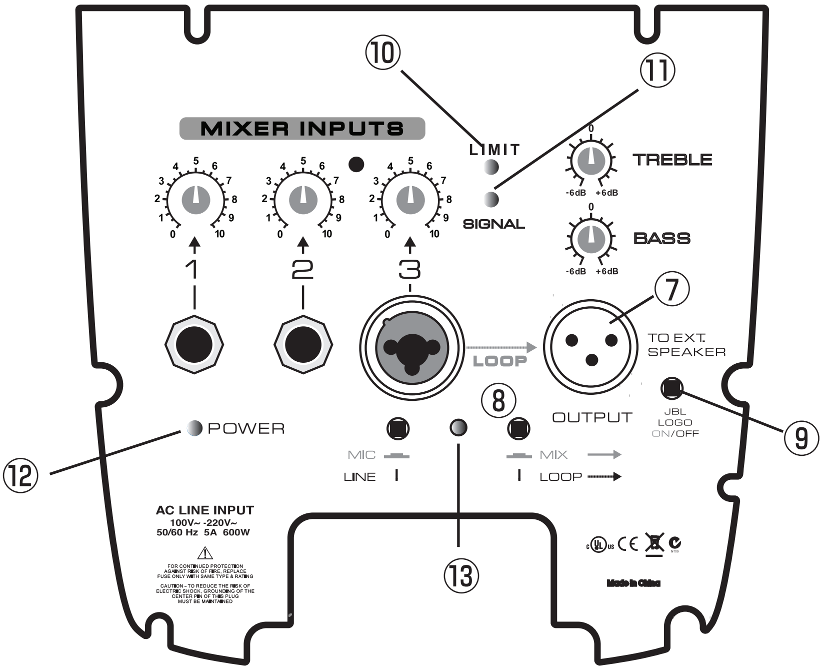
状況に応じて音の特徴 (周波数特性) を最適化します。

・TREBLE ; ± 6dB@4kHz
中央の「0」の位置では入力信号に変化はありません。反時計回りにまわすと、音源の高域周波数が低くなり、印象が弱くなります。時計回りにまわすと、高域が強調されます。

・BASS ; ± 6dB@200Hz
中央の「0」の位置では入力信号に変化はありません。反時計回りにまわすと、音源の低域周波数が低くなり、印象が弱くなります。時計回りにまわすと、高域が強調されます。

■ EON515XT

●コネクター・コントロールパネル (続き)



⑦ OUTPUT(アウトプット) コネクター

XLR(オス) コネクターのバランス出力。複数の EON Series を使用したり、他のシステムに接続するときに使用します。MIX/LOOP スイッチの設定で出力される信号が変わります。

⑧ MIX/LOOP(ミックス / ループ) スイッチ

OUTPUT コネクターから出力する信号を選択するスイッチです。

※注意
このスイッチを操作する前に、接続されている機器のゲインが最小になっているかどうか確認してください。

· MIX(押した状態) では、すべての入力 (INPUT1、INPUT2、INPUT3) をミックスした信号が OUTPUT から出力されます。レベルコントローラーや EQ の設定はすべて OUTPUT から出力される信号に影響します。

· LOOP(押していない状態) では、Inpupt3 に入力した信号のみが OUTPUT から出力されます。レベルコントローラーや EQ の設定は、OUTPUT から出力される信号に影響しません。複数の　EON Series に同じ信号を送りたいときに使用します。

→アプリケーションの例を参照してください。

⑨ロゴ ON/OFF スイッチ

押すと、フロント面の光っているロゴを消灯します。再度押すと、点灯します。

⑩ LIMIT(リミット) インジケーター

クリッピングレベルのおよそ 2dB 前で赤に点灯し始めます。最大ピーク時でたまに明滅する程度なら問題ありません。点灯し続けると、不快な歪み音を生じ、故障につながる恐れもあります。連続して点灯するときは、以下の処置を組み合わせて最適な状態まで入力レベルを下げてください。

1) INPUT1、2、3 のレベルを下げます。

2) EON515XT に接続された音源の出力レベルを下げます。

3) 外部機器で EQ をかなりブーストしている場合は、「フラット (センター)」の位置にします。

※クリッピング：入力信号が許容のレベルを超えると、超えた部分の音の波形が削り取られた状態になります。これがクリッピングです。クリッピングした波形は、無数の高調波が含まれていて、その多くは耳障りな割れた音に聞こえます。

⑪ SIGNAL(シグナル) インジケーター

INPUT コネクターに信号が来ている時、緑に点灯します。

⑫ POWER(パワー) インジケーター

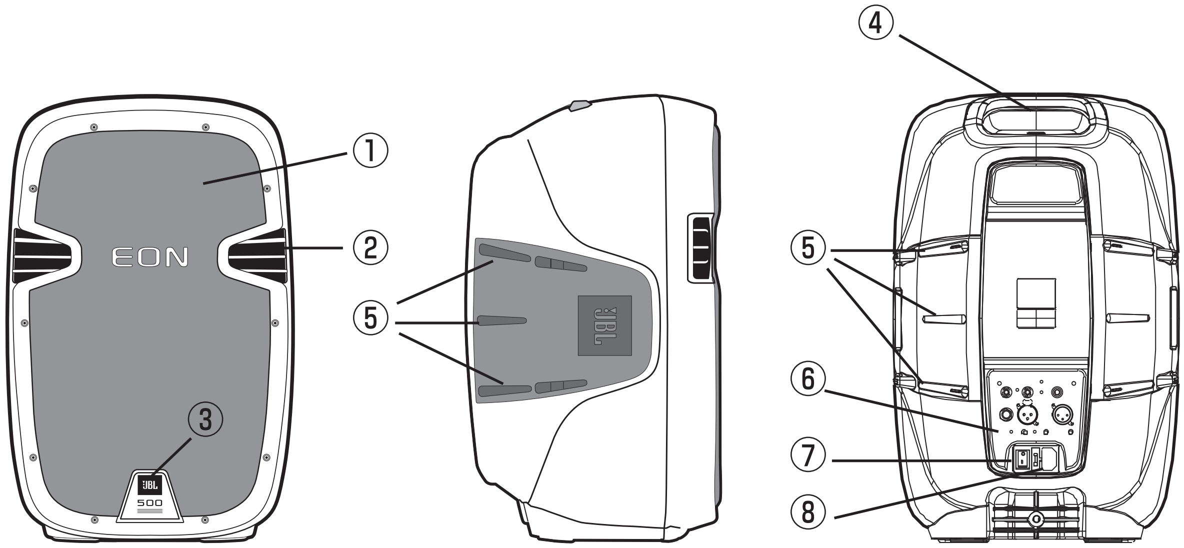
EON515 が電源に接続されていて、電源スイッチが ON になっているとき、青に点灯します。

⑬ MIC インジケーター

MIC/LINE スイッチが MIC(押した状態) になっているときに、赤に点灯します。

■ EON510

●各部名称



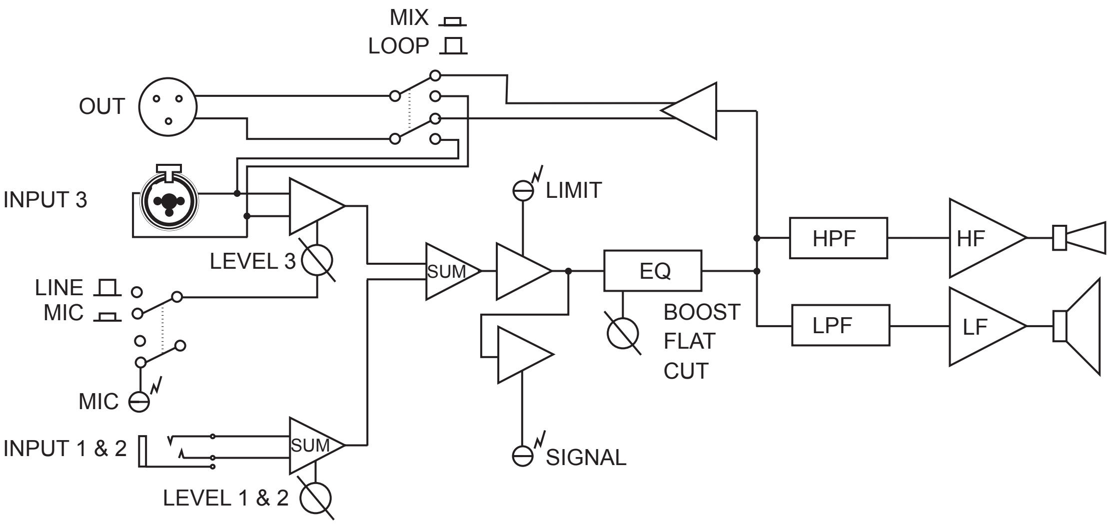
①グリル
②ポート
③ JBL ロゴ
④ハンドル

⑤スタック・ベース
モニターポジション時の足になります。

⑥コネクター・コントロールパネル
次頁参照

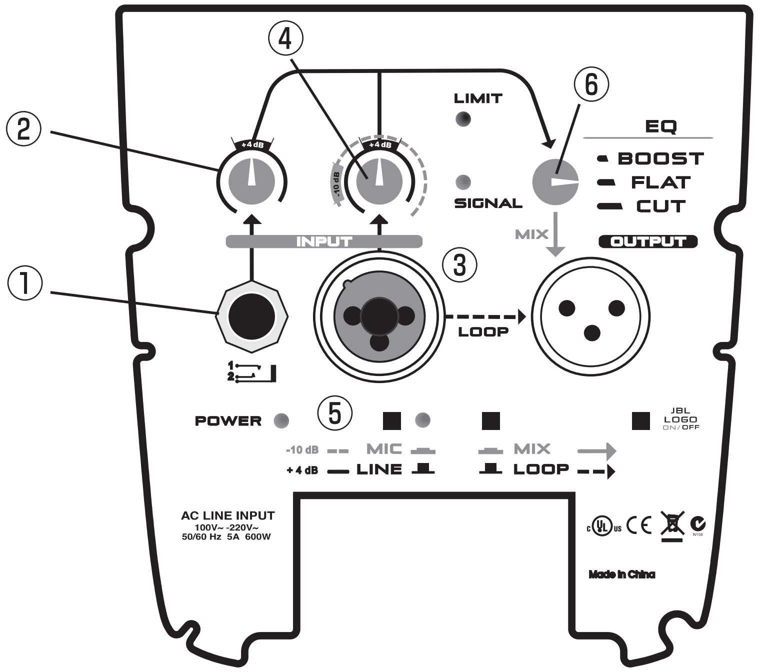
⑦電源コネクター
⑧電源スイッチ

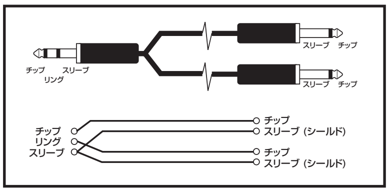
●ブロックダイアグラム



■ EON510

●コネクター・コントロールパネル





INPUT1&2 に 2 系統入力するための
ステレオフォーンプラグ

① INPUT(インプット)1 & 2 コネクター

標準フォーンジャック (3P)。1/4" ステレオフォーンプラグ (TRS) を使って 1 または 2 系統の信号を入力できます。2 系統の接続には、上図のように接続したステレオフォーンプラグを使用します。2 つの信号はミックスされモノラルになります。1 系統の接続には、モノラルフォーンプラグ (TS) を使用。カセットテープや CD、MP3 プレーヤー、コンピューターのサウンドカード出力、キーボード、電子音楽機器などラインレベルの入力に対応します。

② INPUT1 & 2 レベルコントローラー

INPUT1 & 2 のレベルを調整します。

③ INPUT3 コネクター

XLR(メス) コネクターのバランス入力と標準フォーンジャック (3P) の両方に対応。マイクロホンからのマイクレベルの入力とミキシングコンソールや電子音楽機器などのラインレベルの入力が可能 (公称 − 44dBu ～ +20dBu)。MIC/LINE スイッチと INPUT3 レベルコントローラーで入力感度の調整ができます。入力が 1 系統のみの場合は、ここに接続します。

④ INPUT3 レベルコントローラー

INPUT3 の レ ベ ル を 調 整 し ま す。INPUT3 に接続されたマイクロホンやミキシングコンソール、電子楽器などの出力レベルを EON510 の入力感度に合わせるために使用します。

⑤ MIC/LINE(マイク / ライン) スイッチ

INPUT3 のみに機能し、接続した機器の出力レベルに合わせた入力感度に設定します。

・MIC(押した状態) は、マイクロホンを直接接続するときに使用します。

・LINE(押していない状態) は、ミキシングコンソールや電子音楽機器などラインレベルの音源を接続するときに使用します。

※注意
INPUT3 レベルコントローラーを左いっぱいに回してから、MIC/LINE スイッチの操作をしてください。MIC/LINE スイッチの操作後、好みの音量になるまで INPUT3 レベルコントローラーをゆっくりと右に回して調整してください。

⑥ EQ(イコライザー) コントロール

状況に応じて音の特徴 (周波数特性) を最適化します。

・BOOST(ブースト)；高域の明瞭度が上がるので、入力レベルの小さな音が豊かなサウンドに聞こえます。低域の周波数は 150Hz で +3dB のシェルビングフィルター、高域は 4kHz で +2.5dB のシェルビングフィルターが適用されます。

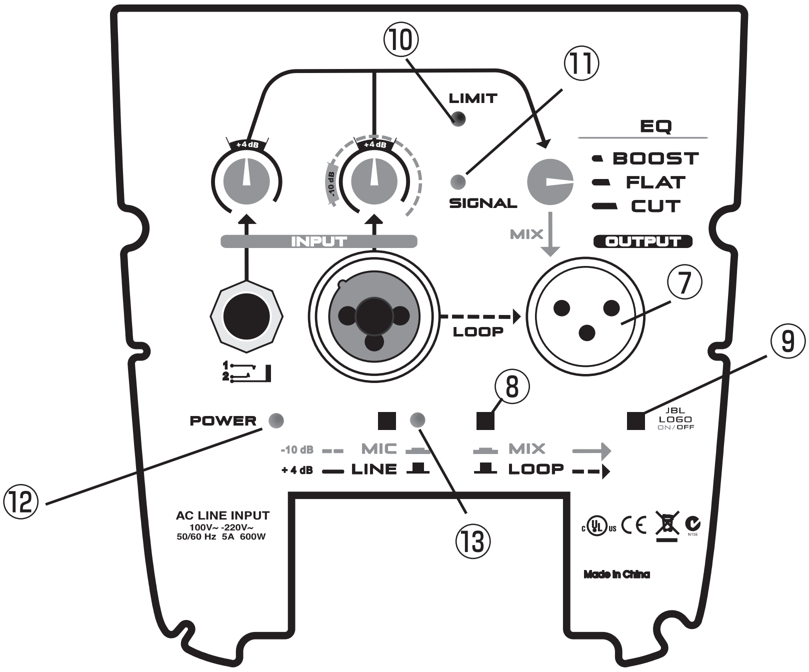
・FLAT(フラット)；EQ をかけていない状態。この設定では、多くのレベルがシステムの極限まで最大になります。

・CUT(カット)；低域周波数をカットします (120Hz で -6dB)。サブウーファーと一緒に運用している際に使用します。スピーチを拡声する状況で、サブウーファーなしで運用している場合も、「CUT」は有効です。フィードバックをおこしにくく、スピーチが明瞭に聞こえます。フロアモニターとして使用しているときにも有効です。

※注意
サブウーファー EON518S と一緒に運用する場合、EON518S のハイパス・フィルター (HPF) と EON510 の EQ-CUT を一緒に使用しないでください。同時に使用するとクロスオーバーの不一致により貧弱な音になります。EON518S のハイパス・フィルタースイッチを THRU にしたうえで、EQ-CUT または FLAT にしてください。

■ EON510

●コネクター・コントロールパネル (続き)



⑦ OUTPUT(アウトプット) コネクター

XLR(オス) コネクターのバランス出力。複数の EON Series を使用したり、他のシステムに接続するときに使用します。MIX/LOOP スイッチの設定で出力される信号が変わります。

⑧ MIX/LOOP(ミックス / ループ) スイッチ

OUTPUT コネクターから出力する信号を選択するスイッチです。

※注意
このスイッチを操作する前に、接続されている機器のゲインが最小になっているかどうか確認してください。

・MIX(押した状態) では、すべての入力 (INPUT1 ＆ 2、INPUT3) をミックスした信号が OUTPUT から出力されます。レベルコントローラーや EQ の設定はすべて OUTPUT から出力される信号に影響します。

・LOOP(押していない状態) では、Inpupt3 に入力した信号のみが OUTPUT から出力されます。レベルコントローラーや EQ の設定はすべて OUTPUT から出力される信号に影響しません。複数の　EON Series に同じ信号を送りたいときに使用します。

→アプリケーションの例を参照してください。

⑨ロゴ ON/OFF スイッチ

押すと、フロント面の光っているロゴを消灯します。再度押すと、点灯します。

⑩ LIMIT(リミット) インジケーター

クリッピングレベルのおよそ 2dB 前で赤に点灯し始めます。最大ピーク時でたまに明滅する程度なら問題ありません。点灯し続けると、不快な歪み音を生じ、故障につながる恐れもあります。連続して点灯するときは、以下の処置を組み合わせて最適な状態まで入力レベルを下げてください。

1）INPUT1 ＆ 2、3 のレベルを下げます。

2）EON510 に接続された音源の出力レベルを下げます。

3）外部機器で EQ をかなりブーストしている場合は、「フラット (センター)」の位置にします。

※クリッピング：入力信号が許容のレベルを超えると、超えた部分の音の波形が削り取られた状態になります。これがクリッピングです。クリッピングした波形は、無数の高調波が含まれていて、その多くは耳障りな割れた音に聞こえます。

⑪ SIGNAL(シグナル) インジケーター

INPUT コネクターに信号が来ている時、緑に点灯します。

⑫ POWER(パワー) インジケーター

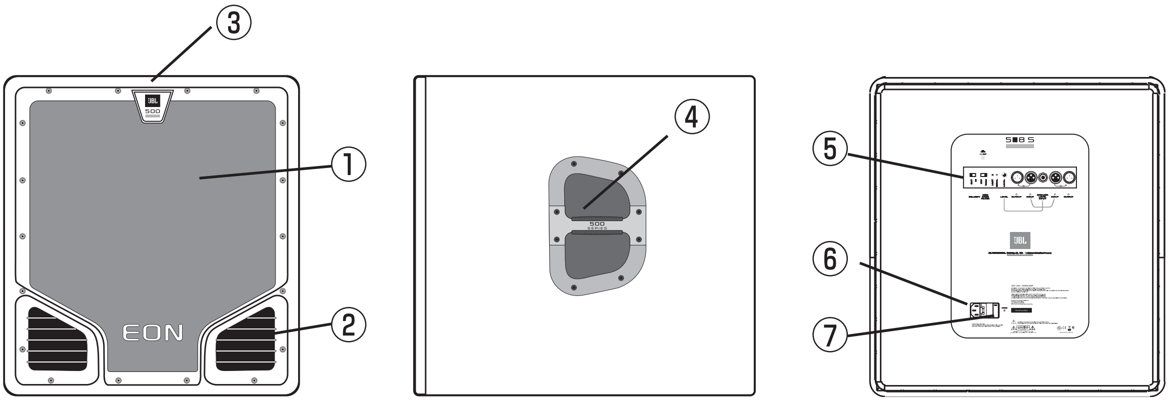
EON510 が電源に接続されていて、電源スイッチが ON になっているとき、青に点灯します。

⑬ MIC インジケーター

MIC/LINE スイッチが MIC(押した状態) になっているときに、赤に点灯します。

■ EON518S

●各部名称

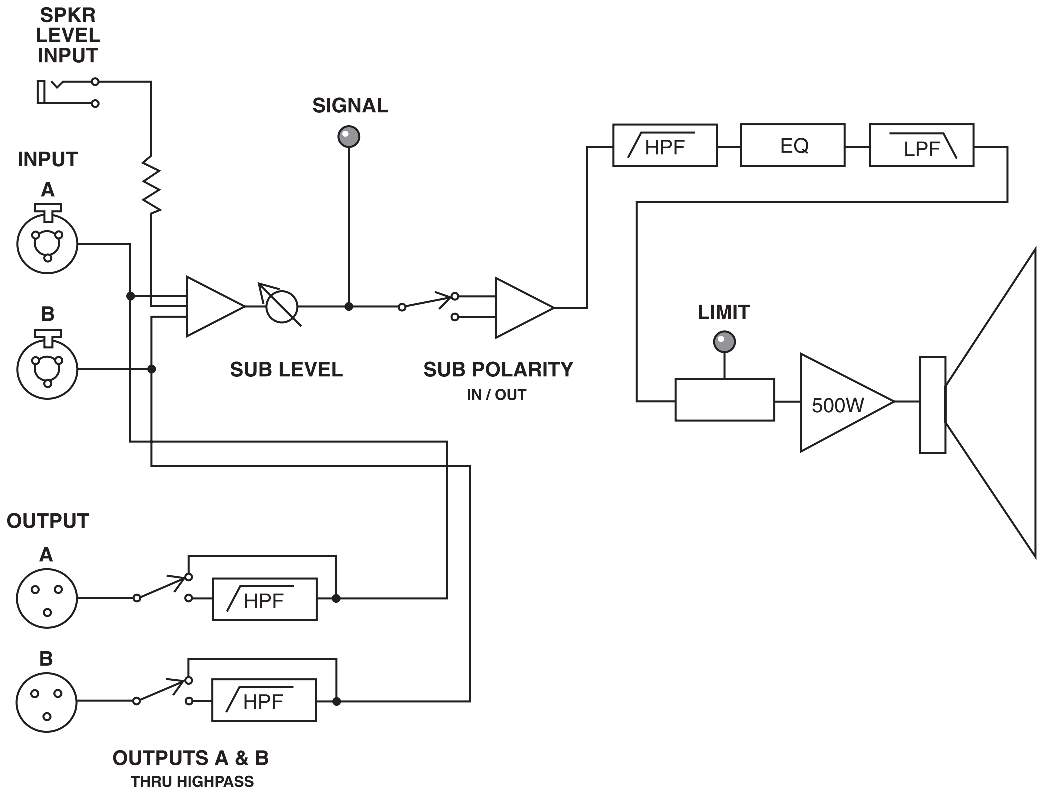


①グリル
②ポート
③ JBL ロゴ

④ハンドル
⑤コネクター・コントロールパネル
次頁参照

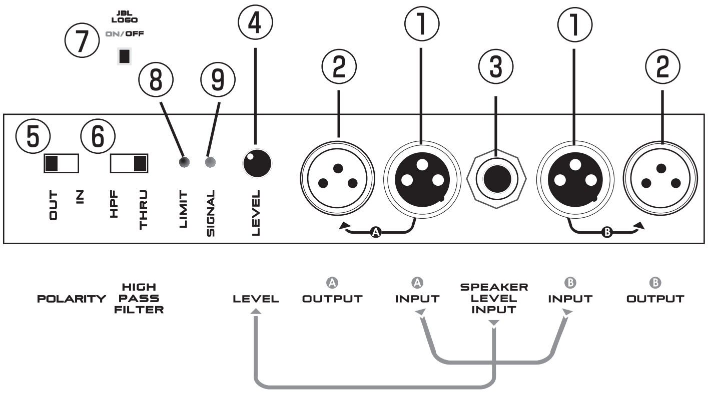
⑥電源コネクター
⑦電源スイッチ

●ブロックダイアグラム



■ EON518S

●コネクター・コントロールパネル



① INPUT(インプット) A & INPUT B コネクター

XLR(メス) コネクターのバランス入力です。ラインレベルの信号を接続します。

・INPUT A と INPUT B に入力された信号は、EON518S 内のローパス・フィルター (LPF) とパワーアンプの前段階までにミックスされます。

・INPUT A と INPUT B は、OUTPUT A と OUTPUT B へルーティングしています。→ High Pass Filter スイッチの項参照。

② OUTPUT(アウトプット) A & OUTPUT B コネクター

XLR(オス) コネクター。INPUT A、INPUT B と並列のループスルーの信号または、ハイパスフィルターを通した信号をラインレベルで出力します。→High Pass Filterスイッチの項参照。

③SPEAKER LEVEL (スピーカーレベル)INPUT コネクター

1/4" フォーンジャック (TS)。パワーアンプやパワードミキサーからの大きな音量の出力を受けます。

※スピーカーレベル・インプット・コネクターは、パワードミキサーや外部アンプで中高域のスピーカーシステムをドライブしている既存のシステムに、EON518S を追加するときに使用します。

④レベルコントローラー

EON518S の入力感度を調整します。OUTPUT A と OUTPUT B には影響しません。

⑤ POLALITY(ポラリティ) スイッチ

サブウーファーの極性を反転させます。サブウーファーとフルレンジ・スピーカーシステムとの相互作用が改善し、リスニングポジションでの低域がより力強くドライブできるようになることがあります。サブウーファーをフルレンジ・スピーカーより離れたところに設置する際に有効です。

⑥ HIGH PASS FILTER(ハイパス・フィルター)(HPF) スイッチ

OUTPUT A と OUTPUT B コネクターに送られる信号に働きかけます。

・THRU：INPUT A の信号がダイレクトに OUTPUT A に送られます。INPUT B の信号も同様に OUTPUT B に送られます。

・HPF：INPUT A の 信 号 は、OUTPUT A コネクターに送られる前に 120Hz で -6dB のハイパス・フィルターを通過します。INPUT B の信号も同様に OUTPUT B コネクターに送られる前に 120Hz で -6dB のハイパス・フィルターを通過します。

※注意

EON510 または EON315 と一緒に運用する場合、EON518S のハイパス・フィルター (HPF) と EON510、EON315 の EQ-CUT を一緒に使用しないでください。同時に使用するとクロスオーバーの不一致により貧弱な音になります。EON518S のハイパス・フィルタースイッチを THRU にしたうえ で、EON510、EON315 の EQ を CUT または FLAT にしてください。

⑦ロゴ ON/OFF スイッチ

押すと、フロント面の光っているロゴを消灯します。再度押すと、点灯します。

⑧ LIMIT(リミット) インジケーター

クリッピングレベルのおよそ 2dB 前で赤に点灯し始めます。最大ピーク時でたまに明滅する程度なら問題ありません。点灯し続けると、不快な歪み音を生じ、故障につながる恐れもあります。連続して点灯するときは、以下の処置を組み合わせて最適な状態まで入力レベルを下げてください。

1) INPUT A、B のレベルを下げます。

2) EON518S に接続された音源の出力レベルを下げます。

※クリッピング：入力信号が許容のレベルを超えると、超えた部分の音の波形が削り取られた状態になります。これがクリッピングです。クリッピングした波形は、無数の高調波が含まれていて、その多くは耳障りな割れた音に聞こえます。

⑨ SIGNAL(シグナル) インジケーター

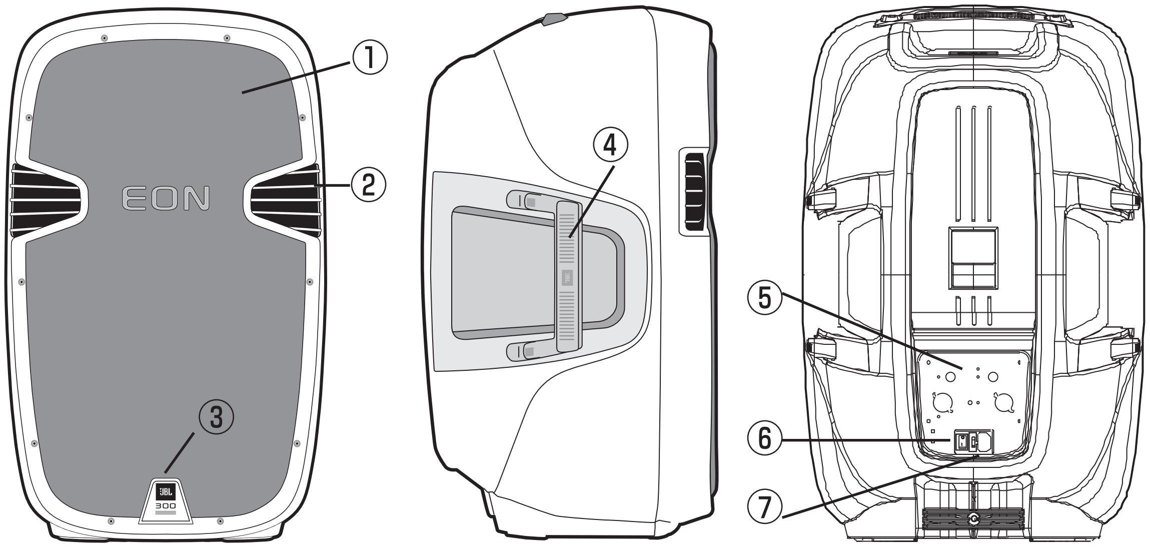
INPUT コネクターに信号が来ている時、緑に点灯します。

⑩ POWER(パワー) インジケーター

EON518S が電源に接続されていて、電源スイッチが ON になっているとき、青に点灯します。

■ EON315

●各部名称

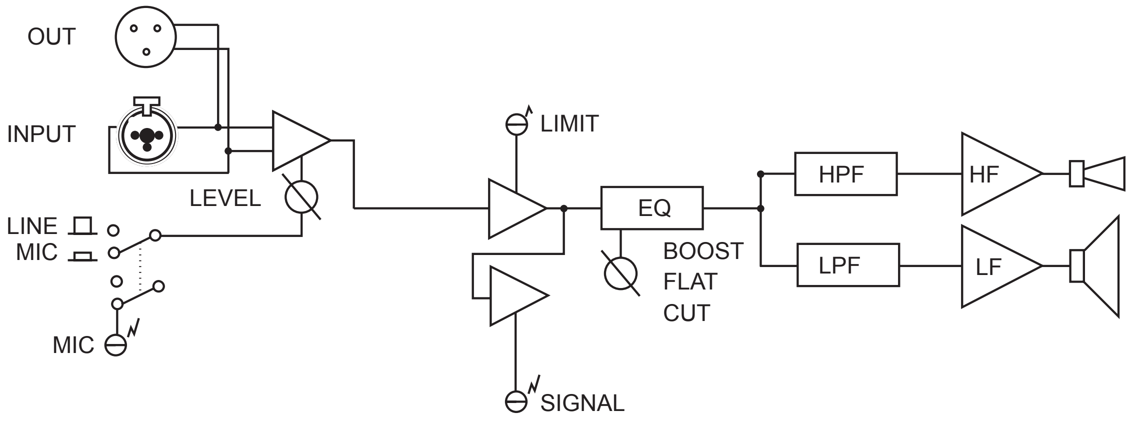


①グリル
②ポート
③ JBL ロゴ

④ハンドル
⑤コネクター・コントロールパネル
次頁参照

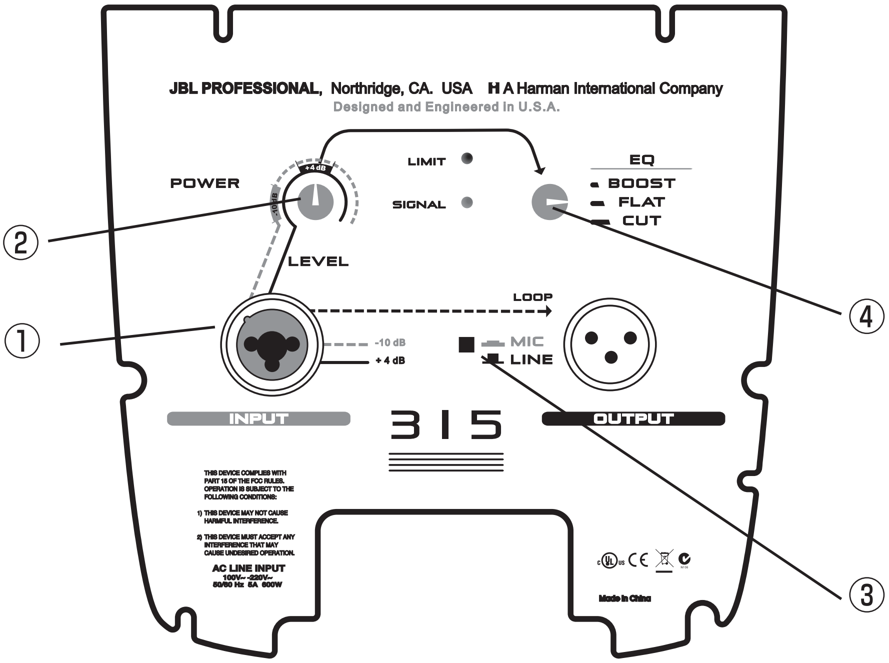
⑥電源コネクター
⑦電源スイッチ

●ブロックダイアグラム



■ EON315

●コネクター・コントロールパネル



① INPUT(インプット) コネクター

XLR(メス) コネクターのバランス入力と標準フォーンジャック (3P) の両方に対応。マイクロホンからのマイクレベルの入力とミキシングコンソールや電子音楽機器などのラインレベルの入力が可能 (公称 -44dBu 〜 +20dBu)。MIC/LINE スイッチと INPUT レベルコントローラーで入力感度の調整ができます。

② INPUT レベルコントローラー

INPUT のレベルを調整します。INPUT に接続されたマイクロホンやミキシングコンソール、電子楽器などの出力レベルを EON315 の入力感度に合わせるために使用します。

※このコントロールは、システムがフル出力でドライブするためにどのくらいの信号が入力時に求められているかを決めるもので、システムのパワーを変えるものではありません。EON315 は、設定の有り無しに係わらず、定格の出力パワーを出します。

③ MIC/LINE(マイク / ライン) スイッチ

INPUT のみに機能し、接続した機器の出力レベルに合わせた入力感度に設定します。

・MIC(押した状態) は、マイクロホンを直接接続するときに使用します。

・LINE(押していない状態) は、ミキシングコンソールや電子音楽機器などラインレベルの音源を接続するときに使用します。

※注意

INPUT レベルコントローラーを左いっぱいに回してから、MIC/LINE スイッチの操作をしてください。MIC/LINE スイッチの操作後、好みの音量になるまで INPUT レベルコントローラーをゆっくりと右に回して調整してください。

④ EQ(イコライザー) コントロール

状況に応じて音の特徴 (周波数特性) を最適化します。

・BOOST(ブースト)；高域の明瞭度が上がるので、入力レベルの小さな音が豊かなサウンドに聞こえます。低域の周波数は 150Hz で +3dB のシェルビングフィルター、高域は 4kHz で +2.5dB のシェルビングフィルターが適用されます。

・FLAT(フラット)；EQ をかけていない状態。この設定では、多くのレベルがシステムの極限まで最大になります。

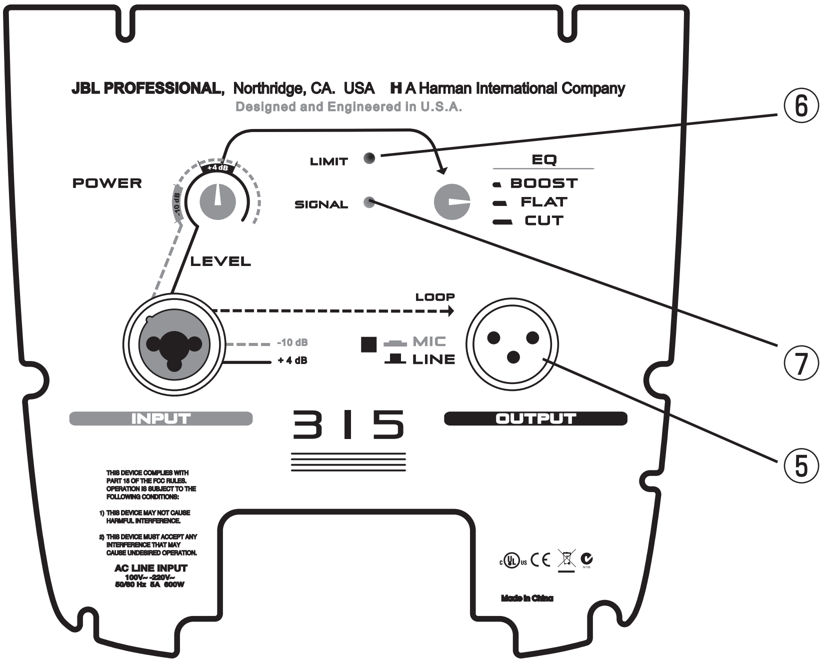
・CUT(カット)；低域周波数をカットします (120Hz で -6dB)。サブウーファーと一緒に運用している際に使用します。スピーチを拡声する状況で、サブウーファーなしで運用している場合も、「CUT」は有効です。フィードバックをおこしにくく、スピーチが明瞭に聞こえます。フロアモニターとして使用しているときにも有効です。

※注意

サブウーファー EON518S と一緒に運用する場合、EON518S のハイパス・フィルター (HPF) と EON315 の EQ-CUT を一緒に使用しないでください。同時に使用するとクロスオーバーの不一致により貧弱な音になります。EON518S のハイパス・フィルタースイッチを THRU にしたうえで、EQ-CUT または FLAT にしてください。

■ EON315

●コネクター・コントロールパネル (続き)



⑤ OUTPUT(アウトプット) コネクター

XLR(オス) コネクターのバランス出力。INPUT に入力された信号がそのまま出力されます。複数の EON Series を使用したり、他のシステムに接続するときに使用します。

⑥ LIMIT(リミット) インジケーター

クリッピングレベルのおよそ 2dB 前で赤に点灯し始めます。最大ピーク時でたまに明滅する程度なら問題ありません。点灯し続けると、不快な歪み音を生じ、故障につながる恐れもあります。連続して点灯するときは、以下の処置を組み合わせて最適な状態まで入力レベルを下げてください。

1）INPUT のレベルを下げます。

2）EON315 に接続された音源の出力レベルを下げます。

3）外部機器で EQ をかなりブーストしている場合、「フラット (センター)」の位置にします。

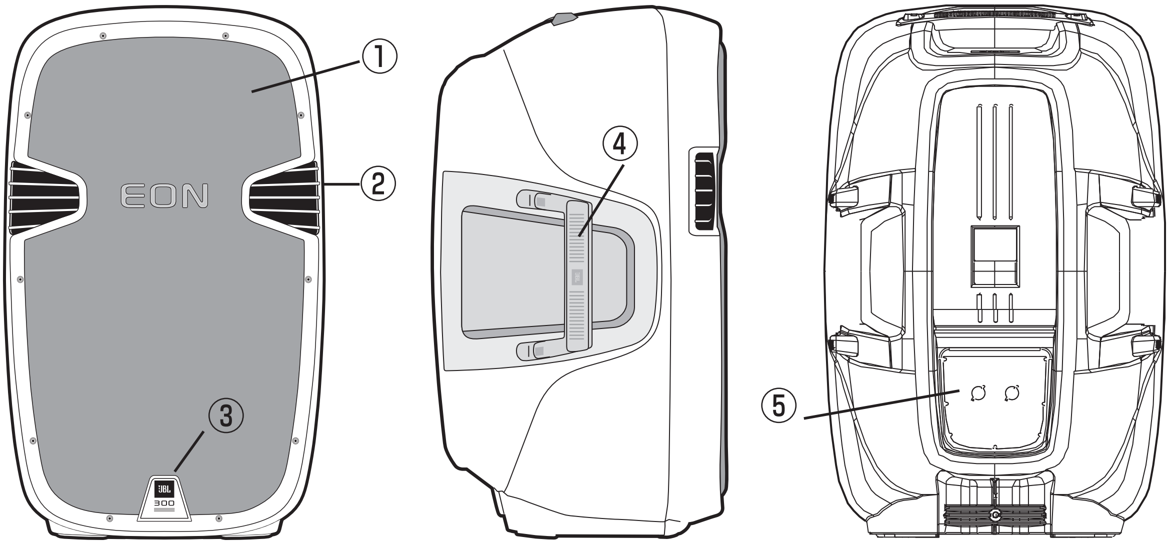
※クリッピング：入力信号が許容のレベルを超えると、超えた部分の音の波形が削り取られた状態になります。これがクリッピングです。クリッピングした波形は、無数の高調波が含まれていて、その多くは耳障りな割れた音に聞こえます。

⑦ SIGNAL(シグナル) インジケーター

INPUT コネクターに信号が来ている時、緑に点灯します。

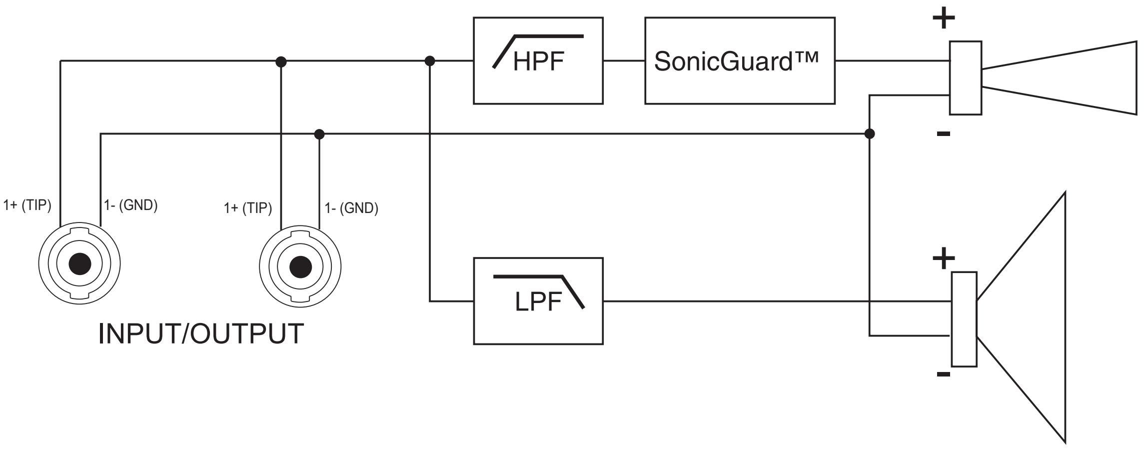
■ EON305

●各部名称

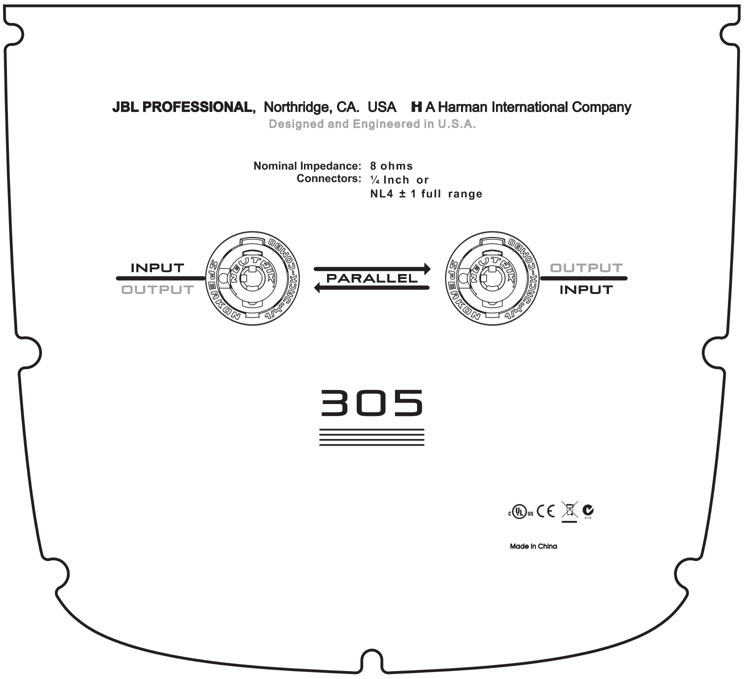


①グリル
②ポート
③ JBL ロゴ
④ハンドル
⑤コネクター・コントロールパネル
次頁参照

●ブロックダイアグラム



●コネクター・コントロールパネル

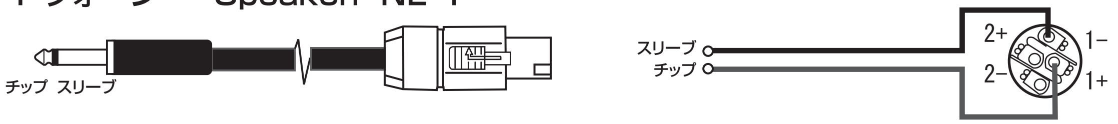


INPUT / OUTPUT コネクター

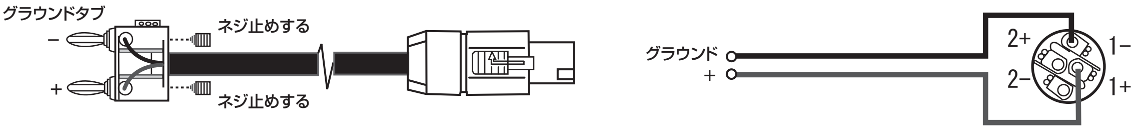
Speakon©(スピコン) の NL4 と標準フォーンジャック (2P) の両方に対応。内部で並列接続されているため、両方のコネクターは全く同じ信号を入力 / 出力します。片方は入力に、片方は複数の EON Series を使用したり、他のシステムに接続するときに使用します。

Speakon© の NL4 コネクターの接続の仕方

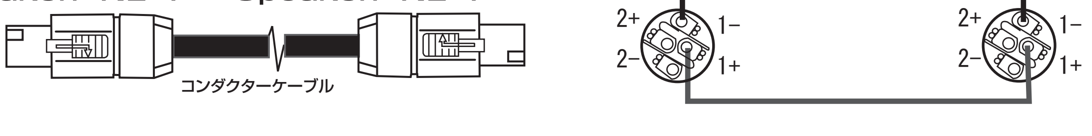
1/4"フォーン → Speakon© NL-4



バナナプラグ → Speakon© NL-4



Speakon NL-4 → Speakon© NL-4



■スピーカーの設置

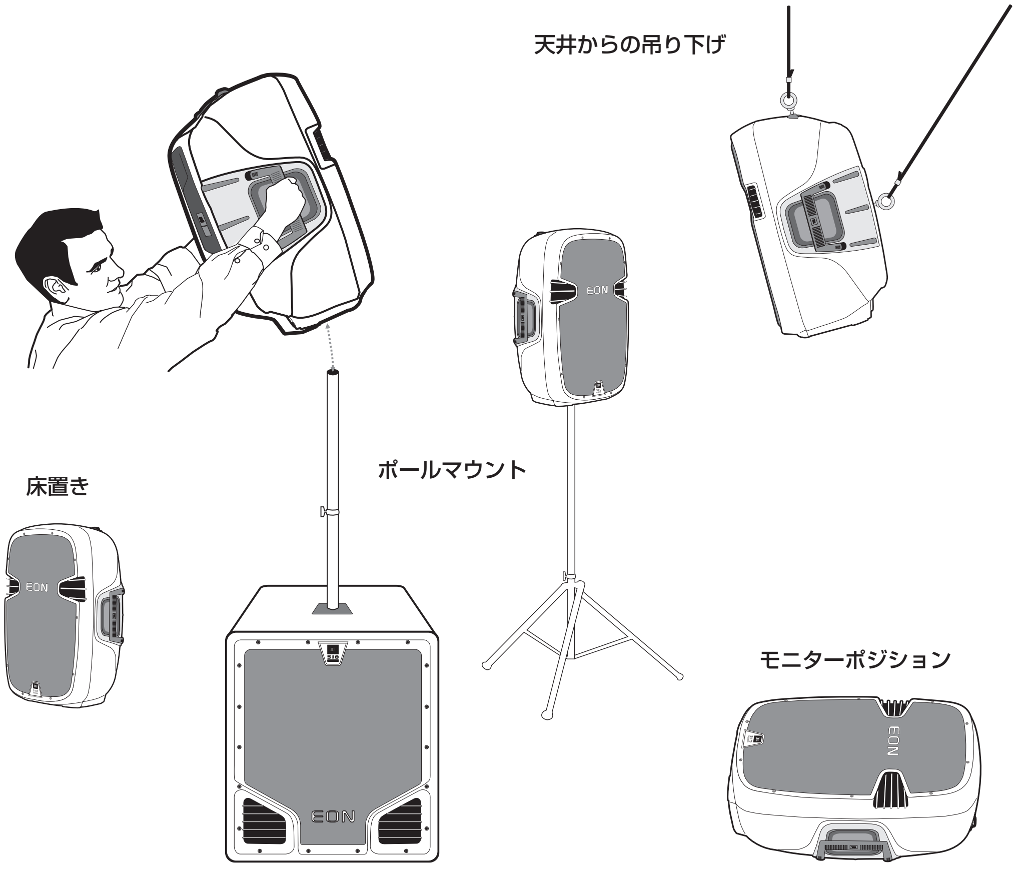
- EON515XT、510、315、305 を PA 用に使用するときには、スピーカーをまっすぐ立て、できるだけ観客の頭上より高い位置に高域ドライバーがくるように設置してください。スピーカーの位置が低すぎると後方の観客に良い音を届けることができません。

⚠ スピーカースタンドに取り付けて使用する際は、以下の点に注意してください。

- 三脚スタンド用のφ 36mm 穴と固定ネジがあります。スタンドに設置する前にネジを十分ゆるめ、スタンドのポールを完全に穴に入れた後、ネジでしっかり固定してください。
- スピーカーの重量 (仕様参照) を支えられるスタンドを使用してください。
- スタンドは平らで安定したところに置いてください。
- スタンドやケーブルは演者や制作スタッフ、観客がひっかけないように配置してください。
- 1 台のスピーカー用に設計されたスタンドに 2 台以上載せないでください。
- 三脚型スタンドの足は完全に開いて使用してください。
- 三脚やポールにスピーカーをのせる際に、1 人で行うのが不安なときは誰かの助けを借りてください。
- 野外で使用するときは、風でスタンドが倒れないよう、開脚部に砂袋をのせるなど、安定をよくするための対策を施してください。
- 観客や演者がスピーカーに触れないよう設置してください。接触するとスピーカーが転倒する恐れがあり、危険です。
- その他、使用するスタンドの取扱説明書を参照し、安全に設置してください。

- ハウリングを防ぐため、スピーカーはマイクロホンの位置よりも観客寄りに置きます。スペースに制約があるなら、スピーカーをマイクロホンの方に向けないように設置してください。
- ターンテーブルのトーンアームがスピーカーの出力を拾うと、増幅されて低周波のフィードバックが起きるので、スピーカーはターンテーブルから離して設置します。DJ ブースで使用する場合は、重量のある硬いターンテーブルベースとショックマウントを使用して、フィードバックを減らしてください。
- ステージモニターとして使用するときは、スピーカーの背面を傾け、側面を下にして置きます。
- 広く残響の多いスペースではスピーカーを増やしてください。ステージから距離が離れているスピーカーにはディレイをかけることをおすすめします。

⚠ EON 500 Series、EON 300 Series は野外に固定設置して使用するシステムではありません。スピーカーを直接湿気にさらさないようにしてください。湿気によりコーンやその周辺がダメージを受け、電気接点に腐食が生じ、感電の危険が生じる恐れがあります。また、長時間、直射日光にあてないでください。スピーカーが強い直射日光にさらされ続けるような野外の設置は、ドライバーサスペンションの急速な乾燥と、仕上げ面の劣化を招きます。



■スピーカーの設置

サスペンション・ポイントを使用して天井に吊り下げる場合

⚠注意

EON を吊り下げる場合は、安全なリギングに関する研修を積んだ適任な作業員が行ってください。重量のあるスピーカーの安全が確保できていない状況でのの吊り下げは、重大な傷害と機器の損失につながります。

⚠注意

この取扱説明書をよく読んで理解した上で、各都市の条例に従って安全に吊り下げてください。保持装置への取り付けは資格のある専門家にご相談ください。

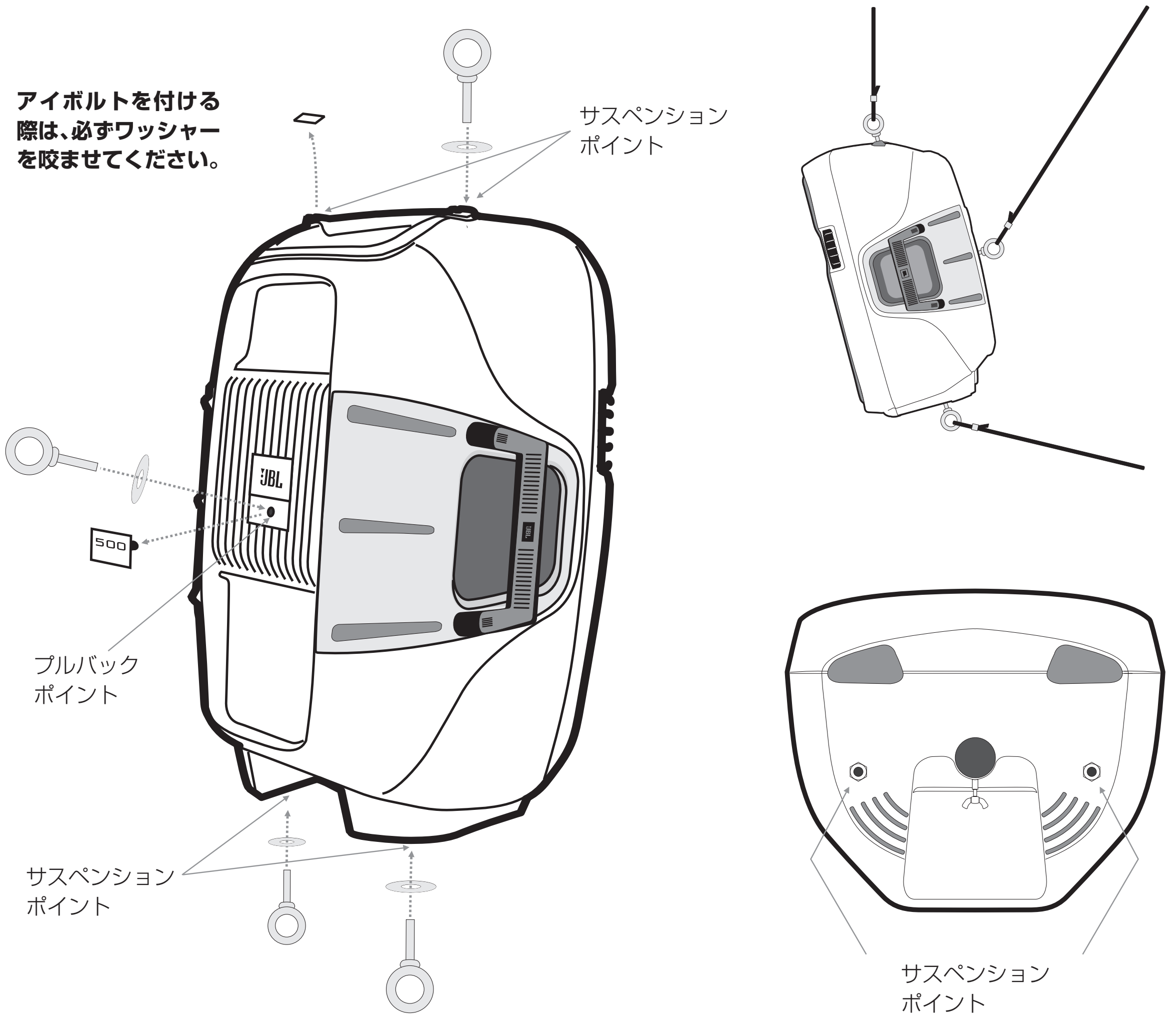
⚠注意

プルバックポイントでスピーカーを吊り下げないでください。

システムを吊り下げる前に、必要となる部品に亀裂や歪み、腐食がないか点検してください。また、設置の強度や安全を低下させる損傷や紛失した部品がないかどうか調べてください。適切なアイボルトとワッシャーを使用してください。

1）EON のシリーズロゴバッジを取り、プルバックポイントを出す。

2）アイボルトにワッシャーを咬ませ、サスペンションポイントに入れ、適切に締め付けます。

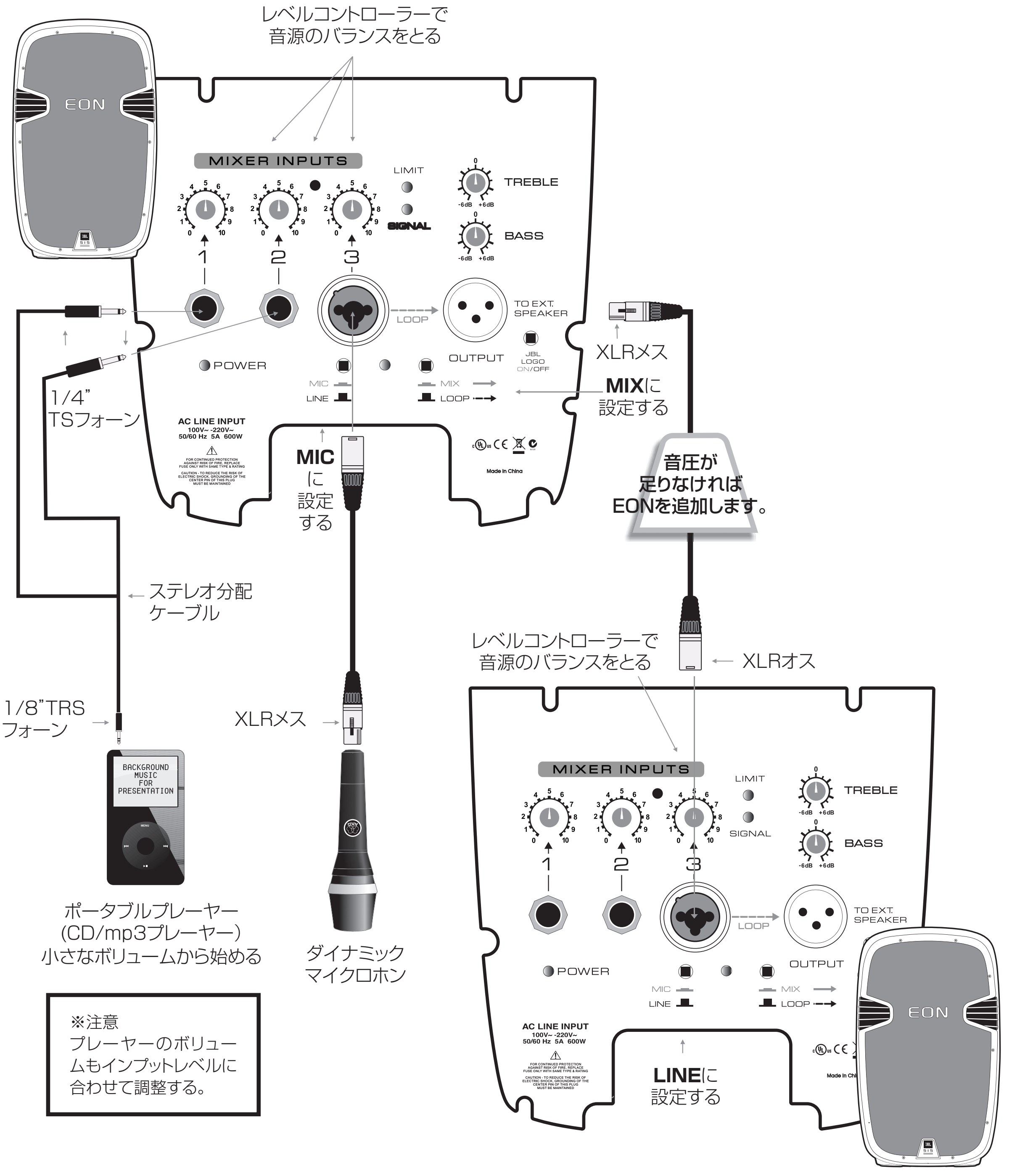


■アプリケーション例

内蔵ミキサーを使用するPA

EON515XT

MIX / LOOP Mix/Loop 機能を使用します。



ポータブルプレーヤー
(CD/mp3プレーヤー)
小さなボリュームから始める

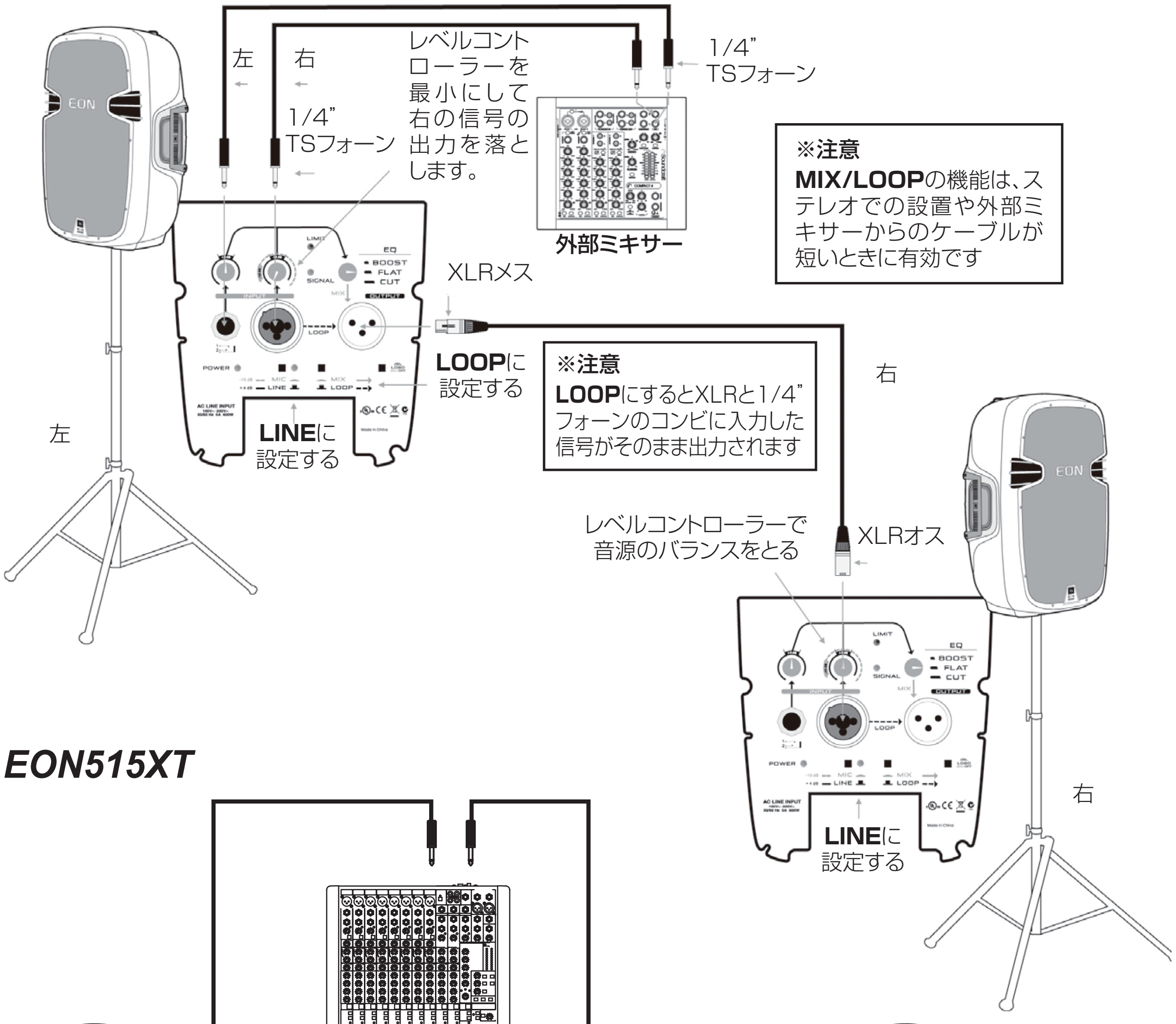
ダイナミック
マイクロホン

※注意
プレーヤーのボリュームもインプットレベルに合わせて調整する。

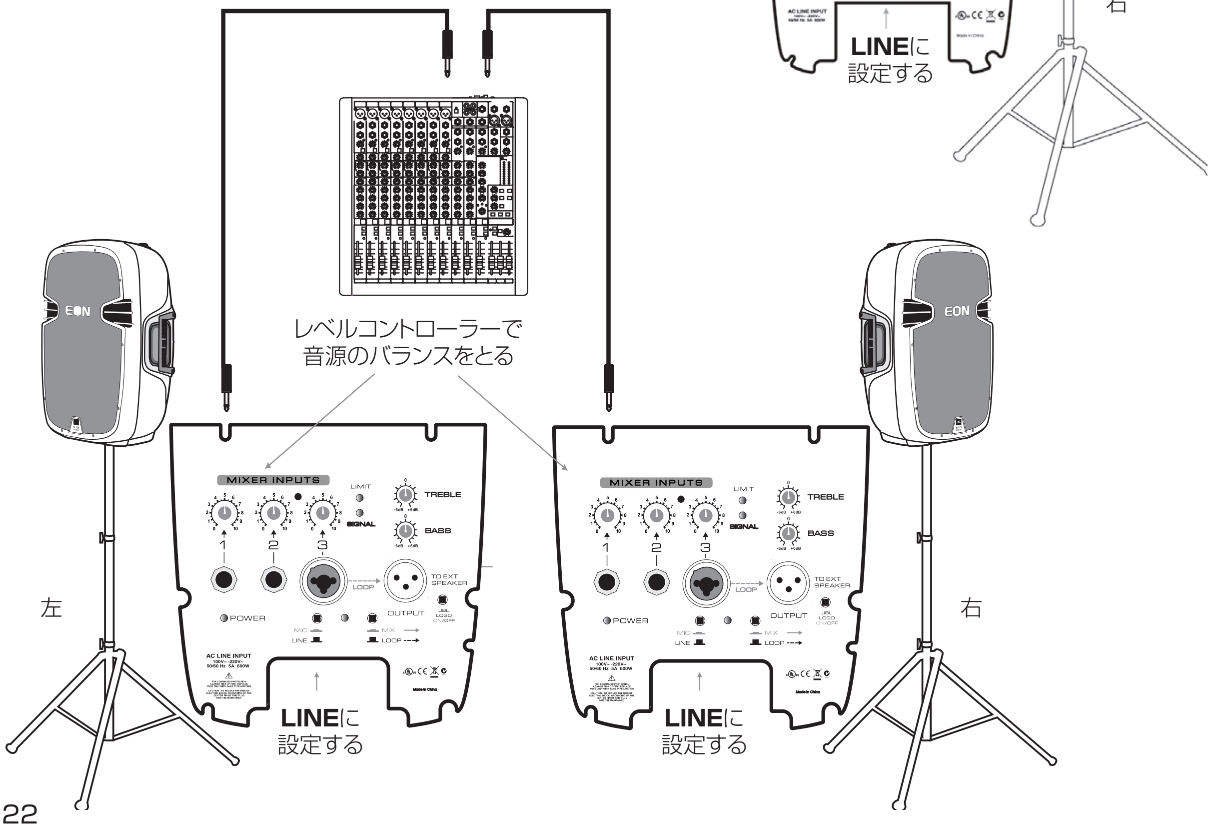
■アプリケーション例

外部ミキサーを使用したPA

EON510



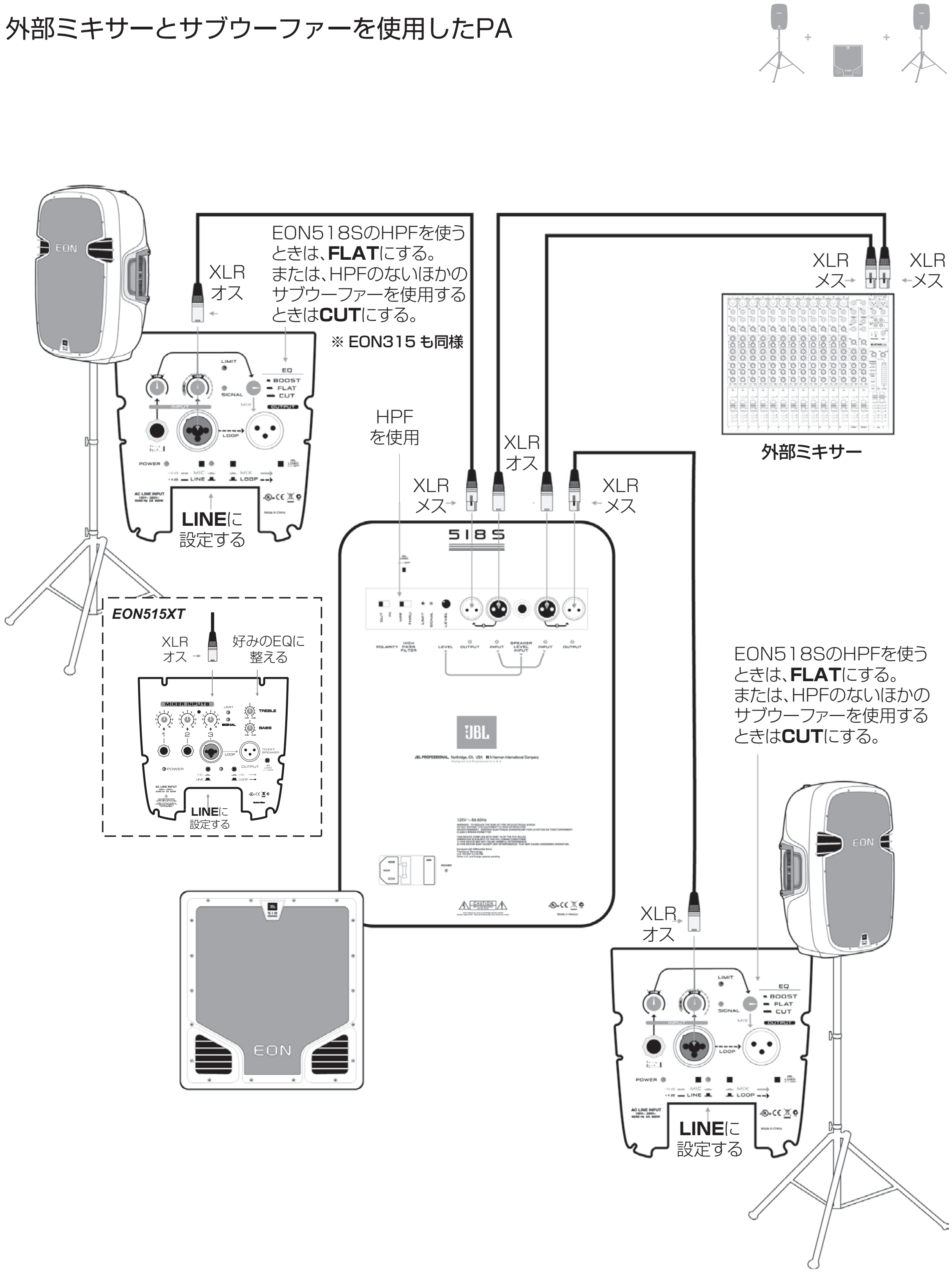
EON515XT



■アプリケーション例

EON510 - EON518S

外部ミキサーとサブウーファーを使用したPA

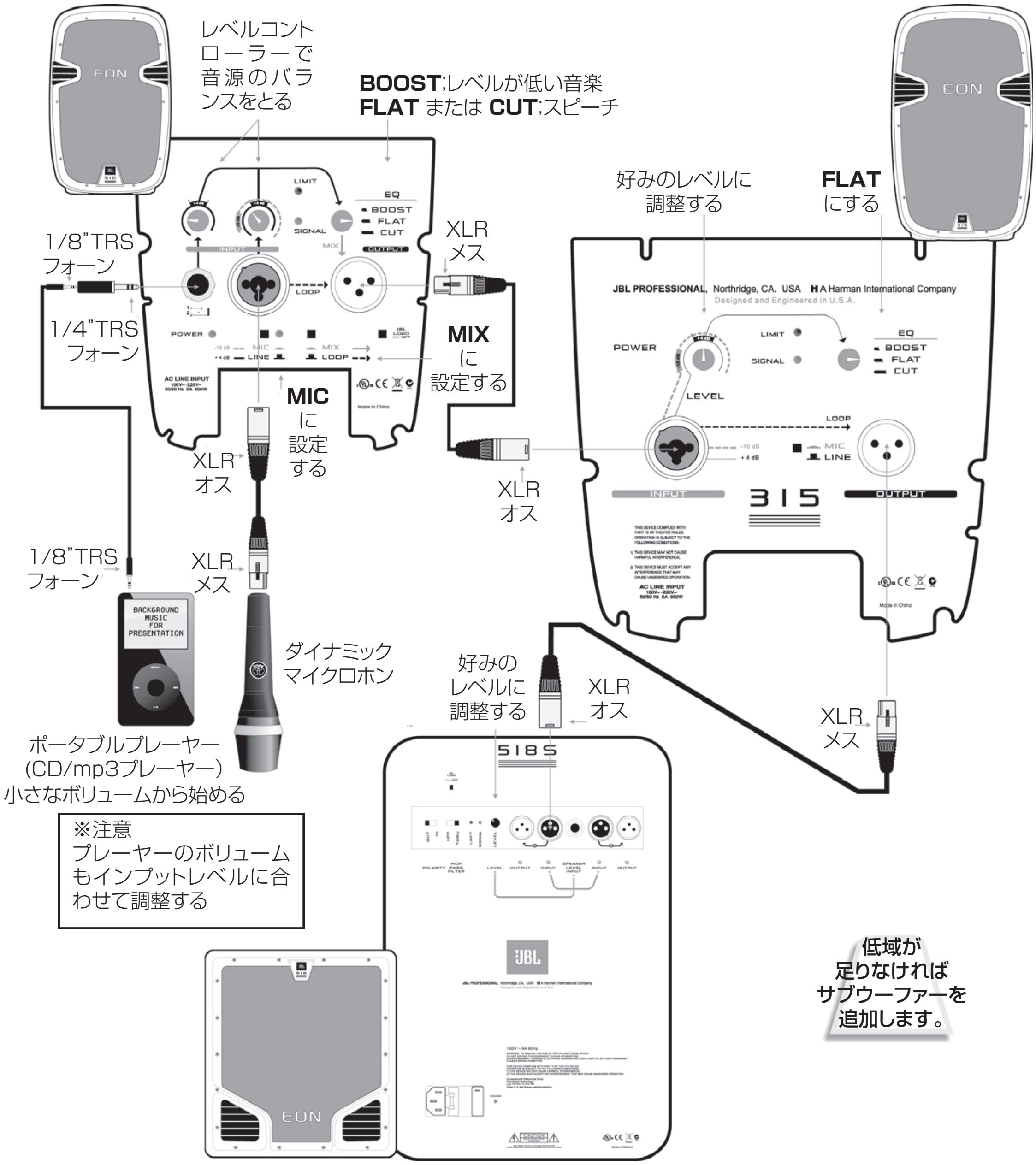


■アプリケーション例

EON315 - EON510 - EON518S

内蔵ミキサーと追加のシステムを使用したPA

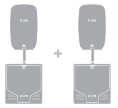
Mix/Loop 機能を使用します。

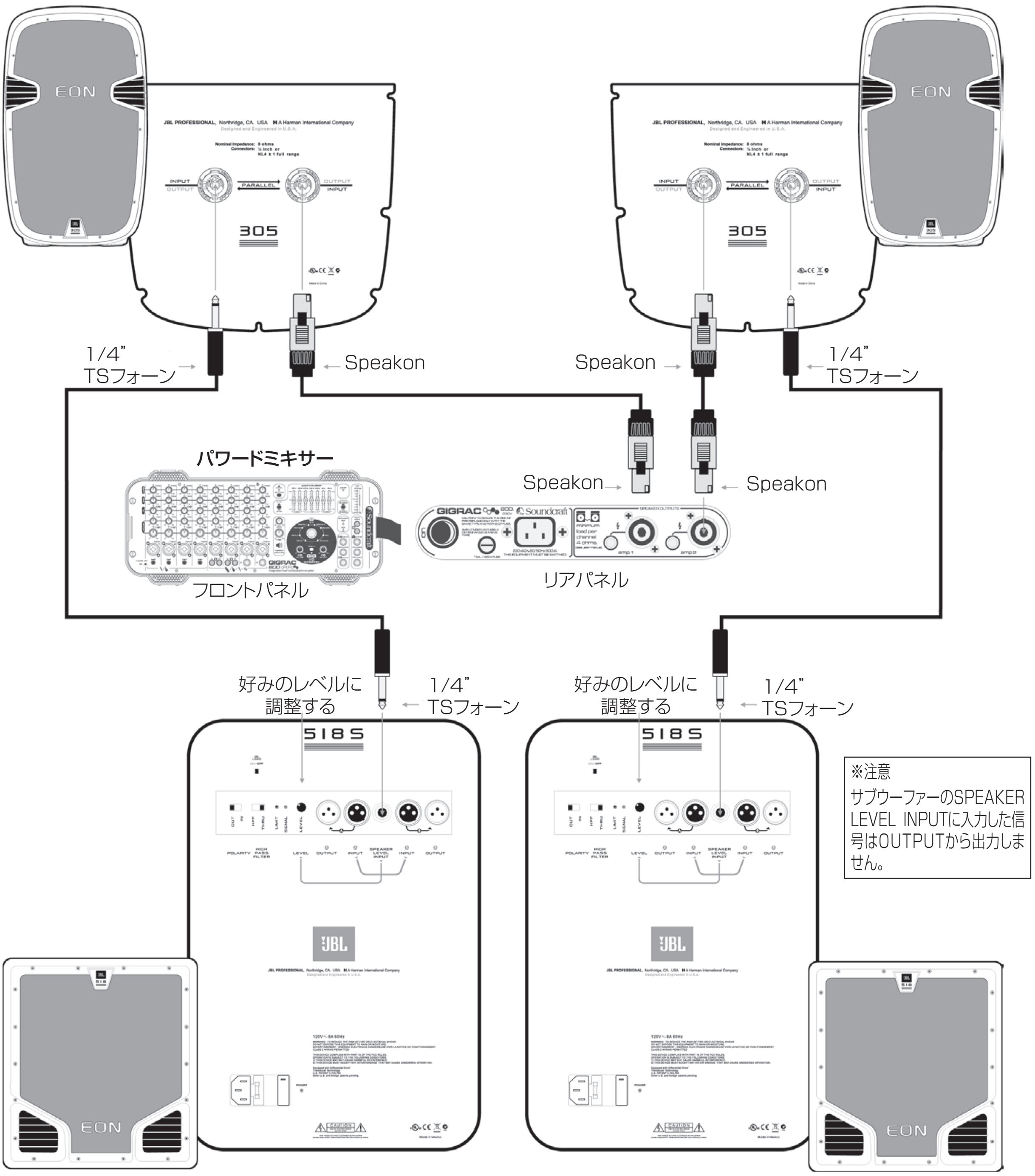


■アプリケーション例

EON305 - EON518S

外部パワードミキサーとパワードサブウーファーを使用したPA

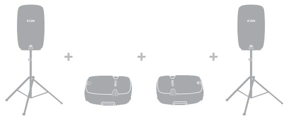


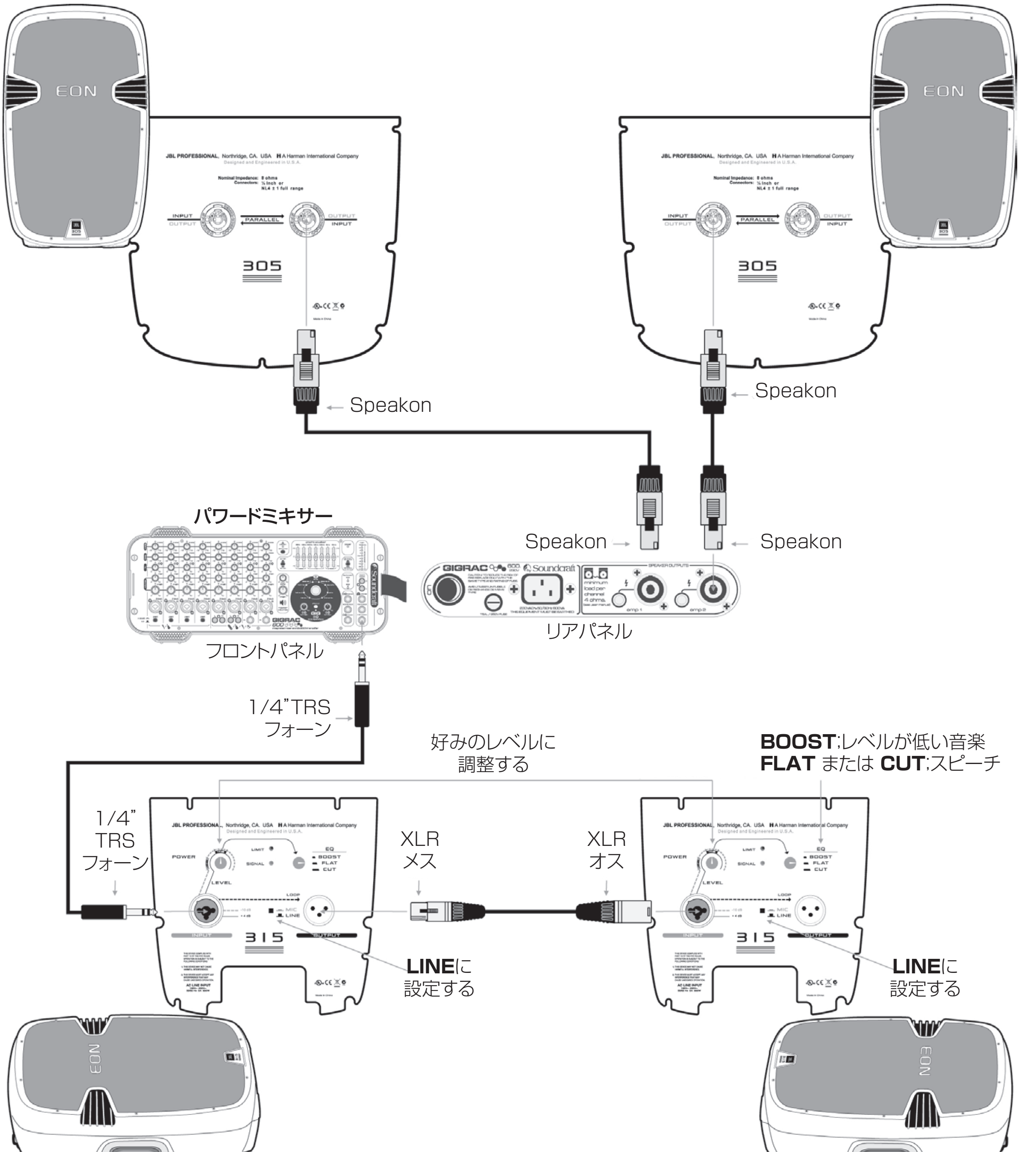


■アプリケーション例

EON305 - EON315

外部パワードミキサーとパワードモニターを使用したPA



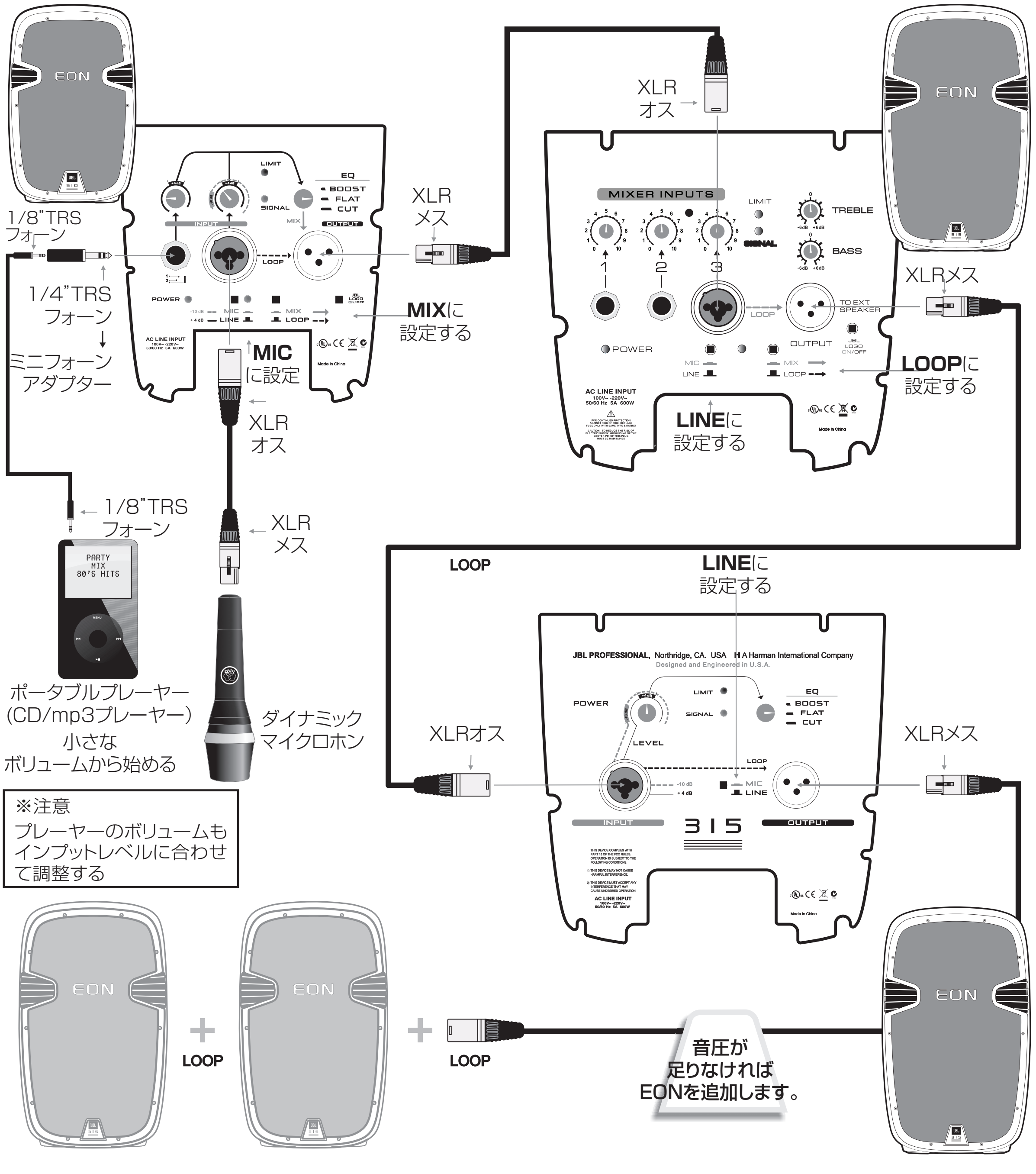


■アプリケーション例

EON315 - EON510 - EON515XT

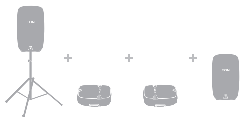
複数のEONを接続(デイジー･チェーン)するPA

Mix/Loop 機能を使用します。



■アプリケーション例

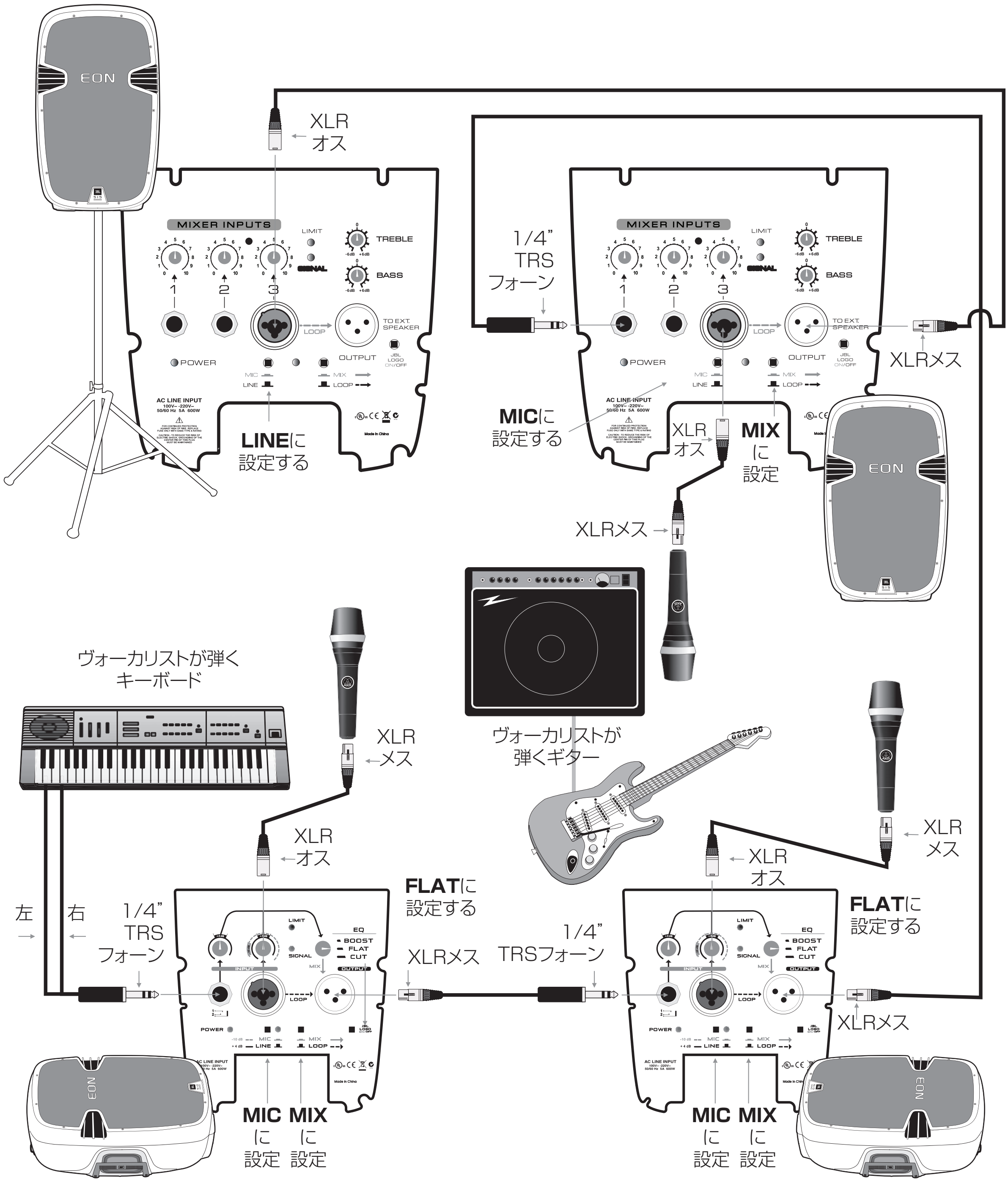
EON510 - EON515



パワードのメインスピーカーとフロアーモニターを使用するPA

内蔵ミキサーのみ使用

Mix/Loop 機能を使用します。



■バランスとアンバランス

バランス接続

信号線 2 本とシールド線 1 本のケーブルを使用します。シールド線は、音声信号を伝えることはありません。ホットとコールドの 2 本の信号線はそれぞれの電圧の大きさが等しく、極性の違う信号を伝えます。もし、信号線に外部干渉 (電波障害などのノイズ) が入っても、互いに打ち消し合ってノイズを除去します。バランス接続は、長くケーブルを引き回す際に適しています。

アンバランス接続

芯線 (ホット)1 本と周囲の網線 (コールドとシールドを共用) のケーブルを使用します。アンバランス伝送は、バランス伝送のようにノイズを除去できません。アンバランス伝送は通常、家庭用の音声機器や電子楽器の出力に使用されます。機器間の距離が短く、信号レベルが比較的高く、システムで使用されているすべての機器に使用される AC 電源が同じコンセントから供給されているときには問題なく動作します。

アンバランスの音源を EON515XT、EON510 に接続する

EON515XT では INPUT1 と INPUT2 を、EON510 では INPUT1 ＆ 2 を使用します

■故障かなと思ったら

次の場合は、故障ではありません。修理を依頼される前に以下の項目をご確認ください。
問題が解決できない場合は、お買い上げ店にご相談ください。

症状	原因	解決方法
音が出ない	ACコンセントから電源が供給されていない	･EON 500,300 Seriesに電源ケーブルが接続され、電気が供給されているか確認します。
	電源スイッチが入っていない	･電源スイッチを入れ、電源インジケーターが点灯しているかどうか確認します。
音が出ない(電気は供給されているのに電源が入らない)	電源ケーブルの断線、あるいは接続不良	･電源ケーブルの両端を差し直してみます。 ･正しく動作するケーブルと換えてみます。 ⚠ 作業をする前に、システム全体の電源を落としてください。
	ヒューズ切れ	･修理をご依頼ください。お客様が交換できるヒューズはありません。
音が出ない(EON 500,300 Seriesに電源は入っているが、SIGNALインジケーターは点灯していない)	EON 500,300 Seriesに接続している機器から信号が来ていない	･EON 500,300 Seriesに接続している機器を確認します。 ･ミキシングコンソールのVUメータを確認します。 ･MP3、CDプレーヤーが再生されているか確認します。 ･ヘッドホンを使って楽器から信号が出ているか確認します。
	ケーブルあるいはコネクタの不良	･ケーブルを外して差し直してみます。 ･疑わしいケーブルを正しく動作するケーブルと交換してみます。 ⚠ 作業をする前に、システム全体の電源を落としてください。
MIC/LINE入力にマイクロホンを直接接続したが、音が出ない。SIGNALインジケーターも点灯しない	コンデンサーマイクロホンを使用している	･マイクロホンにファンタム電源が必要です。可能であれば、電池駆動のコンデンサーマイクロホンのを使用します。 ･外部ファンタム電源装置を使用します。 ･ダイナミックマイクロホンに交換します。
音が歪みとても大きな音になり、LIMITインジケーターが連続して点灯している	過大入力でEON 500,300 Seriesの許容範囲を超えている	･EON 500,300 Seriesに接続している機器のレベルを下げます。 ･EON 500,300 Seriesのレベルを下げます。 ･スピーカーを増設します。

(次頁へ→)

■故障かなと思ったら

症状	原因	解決方法
音はさほど大きくないのに音が歪んでいる。LIMITインジケーターは点灯しない	EON 500,300 Seriesに接続している機器の入力信号が許容のレベルを超えている	･EON 500,300 Seriesに接続している機器の取扱説明書を参照して、必要に応じて入力感度(ゲイン)やレベルを調整します。ミキシングコンソールを接続している場合は、チャンネルフェーダやマスターフェーダを調節します。これらが済んだらクイック･セットアップ･ガイド(p.5)を検証してみてください。
ノイズやヒスが出る	システムを構成している機器同士の入出力の感度が違う。	･MIC/LINEスイッチがLINE(押していない)ポジションであることを確認します。 ･EON 500,300 Seriesのレベルを下げます。
	ノイズを出している機器が接続されている	･EON 500,300 Seriesに接続されている機器をひとつずつ外していきます。ノイズが消えれば、問題はその機器かケーブルにあります。 ⚠ 作業をする前に、システム全体の電源を落としてください。
	ミキシングコンソールを使用している場合、それに接続している機器がノイズを出している	･ミキシングコンソールとそれに接続している機器の取扱説明書を参照し、入力感度(ゲイン)、チャンネルフェーダー、マスターフェーダーを調整します。
ハムやバズ音	ACグランドの不良、グランドループ	･すべてのEON 500,300 Seriesの電源を同じブレーカーからとります。ピン1をつながないXLRオス/メスアダプタを使って、グランド線を切り離します。 ･ケーブルが電源ケーブルや照明ケーブルから離れるように引きなおします。 ⚠ 作業をする前に、システム全体の電源を落としてください。
	アンバランスケーブルの延ばしすぎ	･EON 500,300 Seriesに接続している機器にバランス出力が装備されていれば、バランス出力にします。 ･DI(Direct Injection)ボックスを使ってアンバランスの出力をバランスの出力に変換します。
	システムを構成している機器同士の入出力の感度が違う	･INPUTのレベルを下げ、EON 500,300 Seriesに接続している機器の出力を上げます。
INPUT1･2の信号がOUTPUTから出力されない	MIX/LOOPスイッチの設定が不適当	･MIX/LOOPスイッチをMIXの位置(押した状態)にします。コネクター･コントロールパネルのセクション(p.8、11)を参照してください。
送り側のINPUT3のレベルコントロールの上げ下げにともなって音量が変わってしまう	MIX/LOOPスイッチの設定が不適当	･MIX/LOOPスイッチをLOOPの位置(押していない状態)にします。コネクター･コントロールパネルのセクション(p.8、11)を参照してください。
マイクロホンのレベルを上げるとハウリングが生じる	マイクロホンが、スピーカーの方を向いている	･スピーカーをマイクロホンの指向範囲に入らない場所へ移動します。
	EQの設定が正しくない	･ミキシングコンソールのEQあるいは外部EQをフィードバックの周波数に設定してカットします。
	レベルの上げすぎ	･EON 500,300 Seriesに接続している機器のレベルを下げ、マイクロホンを音源に近づけます。
電源がおちる	アンプの過熱	･日陰に入れたり、風を送るなどのクーリングをします。
電源が入らない	電源電圧の不足	･起動時には100V(±5%)が必要です。電源電圧を確認してください。

■仕様

EON 500 Series

	EON515XT	EON510	EON518S
形式	ミキサー内蔵 2-Way パワード・フルレンジ・スピーカー	ミキサー内蔵 2-Way パワード・フルレンジ・スピーカー	パワード･サブウーファー
周波数レンジ (-10dB)	39Hz ～ 20kHz(EQ は 0)	58Hz ～ 18.5kHz (EQ は Flat)	36Hz ～ 130Hz
周波数レスポンス (± 3dB)	42Hz ～ 18kHz(EQ は 0)	70Hz ～ 17kHz(EQ は Flat)	42Hz ～ 100Hz
指向角度 (水平×垂直)	100° × 60°	100° × 60°	-
指向性指数 (DI)	9dB(75Hz ～ 6.5kHz)	9dB	-
指向係数 (Q)	8	8	-
クロスオーバー周波数	1.7kHz	1.8kHz	-
パワーアンプ出力 (<0.1%THD)	**システム：** 625W/1250W ピーク **LF:**525W、**HF:**100W	**システム：** 280W/560W ピーク **LF:**220W、**HF:**60W	500W/1000W ピーク
最大音圧	132dB SPL	121dB SPL	129dB SPL
シグナルインジケーター	Limit: 過負荷時に赤 Signal: 緑 Mic/Line:Mic 設定時に赤	Limit: 過負荷時に赤 Signal: 緑 Mic/Line:Mic 設定時に赤	Limit: 過負荷時に赤 Signal: 緑
入力ゲイン	**Input 3** Mic: −∞～ +40dB Line: −∞～+ 4dB(+20dBu 最大入力)	**Input 3** Mic: −∞～ +40dB Line: −∞～+ 4dB(+20dBu 最大入力)	−∞～+ 4dBu
	Input 1& Input 2 −∞～ 4dB(+18dBu 最大入力)	**Input 1&2** −∞～ 4dB(+20dBu 最大入力)	
イコライザー　BOOST	**LF:** +6dB シェルビング@ 200Hz **HF:** +6dB シェルビング @4kHz	**LF:** +3dB シェルビング@ 150Hz **HF:** +2.5dB シェルビング @4kHz	-
CUT	**LF:** − 6dB シェルビング@ 200Hz **HF:** − 6dB シェルビング @4kHz	6dB @ 120Hz	-
ハイパスフィルター	-	-	120Hz
ドライバー構成	**LF:** 380mm(265F-1) × 1 **HF:** 25mm(2414H) × 1	**LF:** 254mm(261F) × 1 **HF:** 25mm(2414H-1) × 1	460mm(268G) × 1
入力コネクター	**Input3** XLR と標準フォーン (3P) 対応の複合型端子 (マイク / ライン) × 1 **Input 1& Input 2** 標準フォーン (3P)(ライン) × 2	**Input3** XLR と標準フォーン (3P) 対応の複合型端子 (マイク / ライン) × 1 **Input 1&2** 標準フォーン (3P)(ライン) × 1	XLR(ライン) × 2、標準フォーン (2P)(ライン or スピーカーレベル) × 1
出力コネクター	バランス XLR(Pin2:+、Pin3: −、Pin1:GND)	バランス XLR(Pin2:+、Pin3: −、Pin1:GND)	バランス XLR(Pin2:+、Pin3: −、Pin1:GND)
電源	100V、50/60Hz	100V、50/60Hz	100V、50/60Hz
消費電力	80W（1/8 出力時、1kHz）	35W（1/8 出力時、1kHz）	45W（1/8 出力時、65Hz）
エンクロージャー	コポリマー樹脂、黒	コポリマー樹脂、黒	合板、黒
寸法 (幅×高×奥行)	438 × 685 × 366mm	313 × 490 × 262mm	548 × 598 × 652 mm
質量	15kg	7.7kg	31kg

■仕様

EON 300 Series

	EON315
形式	2-Way パワード・フルレンジ・スピーカー
周波数レンジ (-10dB)	38Hz ～ 20kHz(EQ は Flat)
周波数レスポンス (± 3dB)	50Hz ～ 18kHz(EQ は Flat)
指向角度 (水平×垂直)	100° × 60°
指向性指数 (DI)	9dB
指向係数 (Q)	8
クロスオーバー周波数	1.8kHz
パワーアンプ出力 (<0.1%THD)	**システム**：280W/560W ピーク **LF:**220W、**HF:**60W
最大音圧	127dB SPL
シグナルインジケーター	Limit: 過負荷時に赤 Signal: 緑 Mic/Line:Mic 設定時に赤
入力ゲイン	Mic: －∞～ +40dB Line: － ∞ ～ ＋ 4dB(+20dBu 最大入力)
入力インピーダンス	64k Ω (バランス)、 32k Ω (アンバランス)
イコライザー　BOOST	**LF:** +3dB シェルビング@ 150Hz **HF:** +2.5dB シェルビング @4kHz
CUT	－ 6dB@120Hz
ドライバー構成	**LF:**380mm(M115-2) × 1 **HF:**25mm(2414H-1) × 1
入力コネクター	XLR と標準フォーン (3P) 対応の複合型端子 (マイク / ライン)
出力コネクター	バランス XLR (Pin2:+、Pin3: －、Pin1:GND)
電源	100V、50/60Hz
消費電力	40W（1/8 出力時、1kHz）
エンクロージャー	コポリマー樹脂、グレー
寸法 (幅×高×奥行)	438 × 685 × 366 mm
質量	16kg

	EON305
形式	2-Way フルレンジ・スピーカー
周波数レンジ (-10dB)	38Hz ～ 20kHz
指向角度 (水平×垂直)	100° × 60°
クロスオーバー周波数	1.9kHz
最大音圧	128dB SPL
公称インピーダンス	8 Ω
ドライバー構成	**LF:**380mm(M115-8) × 1 **HF:**25mm(2414H-1) × 1
許容入力	250W（連続）、1000W ピーク
入出力コネクター	スピコン (NL4) と標準フォーン (2P) 対応の複合型端子
エンクロージャー	コポリマー樹脂、グレー
寸法 (幅×高×奥行)	438 × 685 × 366 mm
質量	15kg

JBL PROFESSIONAL by HARMAN

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

14/04

HIBINO

http://www.hibino.co.jp/
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110　FAX: 03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890　FAX: 06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500　FAX: 092-611-5509

札幌オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770　FAX: 011-640-6776

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712　FAX: 052-589-2719